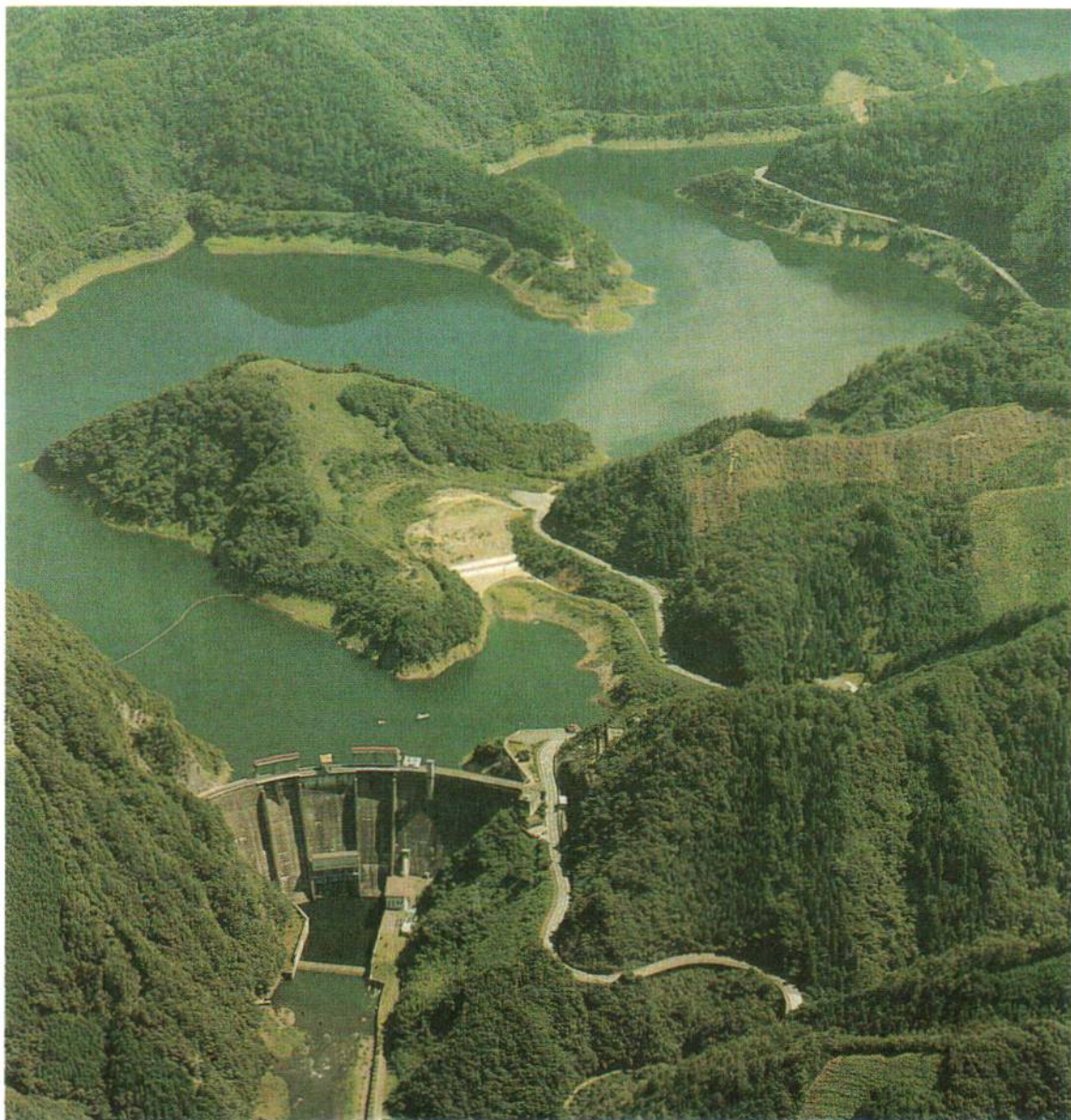


わたしたちのふるさと

かわかみ



川上村教育委員会



あぶ
阿武川ダム



さんか
村花—「ユズ」
昭^{せう}和55年9月2日設定



さんぼく
村木—「杉」
昭^{せう}和55年9月2日設定



そん しょう
村 章

村名「川上村」を图案化したもので、山と川と湖（ダム）の美しい自然に恵まれた村をあらわします。円は団結を、羽は三くんの誇り責任と希望、飛やく発を意味します。

川上村民憲章

わたくしたち川上村民は、先人の築いた郷土に誇りをもち、力を合わせて、美しい自然を守り、活力に満ちた住みよい村を目指して、この憲章を定めます。

一、恵まれた自然を愛し、

環境を整え

住みよい村をつくります

一、健康で勤労を尊び

活力に満ちた

豊かな村を育てます

一、生涯を通じて学び合い

文化を高め

伸びゆく村を築きます

平成元年五月一日制定

川上村歌

白上貞利作詞
安藤清彦作曲 押尾 司編曲

一、八重たつ 杉山 滴る 緑

千町の 美し田 波うつ 黄金

蚕飼いの 灯影も 趣 そえて

野辺にも 山にも 恵みぞ 満る
いざ護れ 進めよ われらのなりはひ

二、高嶺は 迫りて 青淵 黙し

速瀬は 狂ひて 巖は 叫ぶ

雄々しき 眺めに 心も 猛く
神代の 風情に 思いは 浄し

いざ継げ 磨けよ われらのならひを

三、命も 擲つ 犠牲の誠

伝えて いよいよ 火とこそ 燃ゆれ

八十溪 あつむる 川こそ 鑑

親しみ 睦みて 力をあわせ
いざ起て 興せよ われらの川上

わたしたちの川上村





わたしたちのふるさと

かわかみ

村長さんからのメッセージ

「わたしたちのふるさと かわかみ」によせて



川上村長 にのみや はるしげ
二宮 治重

わたしたちの住んでいる川上村は、村の中央を美しい阿武川が流れ、その両岸に野や山が開けてとてもけしきの美しい村です。

川上村の人々は、むかしからこの豊かな川と山々を生かしたくらしを考え、求め続けてきたのです。村の人々の大へんな努力のおかげで、しだいに住みよい村となってきました。

この本は、そのようすのうつりかわりや最近のようすまでよく分かるようにまとめられています。この本をしっかりと利用して、川上村を正しくつかんでください。そして、私たちのたからである阿武川をもっともっと生かした村として、力を合わせて発てんさせてくれることを願っています。

教育長さんからのメッセージ

「わたしたちのふるさと かわかみ」で
学習するみなさんへ



川上村教育委員会教育長 宇田川 憲吾

わたしたちの村も、しだいに変わってきています。そこで、これまで使っていた「わたしたちのふるさと かわかみ」も新しく書きなおされました。

この本の中には、川上村の土地のようすや人々のくらしのようすなどが書かれています。

先生方のおせわによって、写真や図表などがたくさん入れられていて、みなさんが楽しく、自分からすすんで学習できるよう工夫されています。

勉強するうえでおねがいたいことは、この本を使って村のようすをよく知ってほしいことと、書かれていることからもっとくわしく勉強してみたいことなどを見つけ、自分で調べてほしいのです。

そうして、村のよいところや勉強の楽しさに気付いてくれることを心から期待しています。

わたしたちのふるさと かわかみ

も く じ

1. みんなでつくる村
 1. うつくしい村づくり 1~4
 2. みんなの公みん館 5~6
 3. 村のいろいろなしせつ 7~8
2. わたしたちの村のようす
 1. 学校のまわりのようす 9~12
 2. 村全体のようす 13~18
3. わたしたちのくらしと商店
 1. よく行く店 19~20
 2. 近くの商店 21~22
 3. スーパーマーケット 23~26
 4. 菽市の商店がい 27~28
 5. 品物がつくられた所 29
 6. 上手な買い物 30
4. 村の人びとの仕事
 1. 村の農家でつくっているもの 31~43
 2. 村の工場で作っているもの 44
5. かわってきた人びとのくらし
 1. 学校のうつりかわり 45~48
 2. くらしのうつりかわり 49~55
 3. 村の古いものさがし 56~58
6. 住みよいくらしをささえる
 1. わたしたちのくらしと水 59~64
 2. わたしたちのくらしとごみ 65~72
7. 安全なくらしを守る
 1. 交通じこをふせぐ 73~78
 2. 火事をふせぐ 79~83
 3. 風水害をふせぐ 84~86
8. きょうどを開く
 1. きょうどの発てんにつくした人びと 87~93
 2. 新しい村づくり 94~98



1. みんなでつくる村



1. うつくしい 村づくり

水と緑にかこまれた川上村の人たちは、うつくしい村、住みよい村にするために、どんなことをしているのでしょうか。



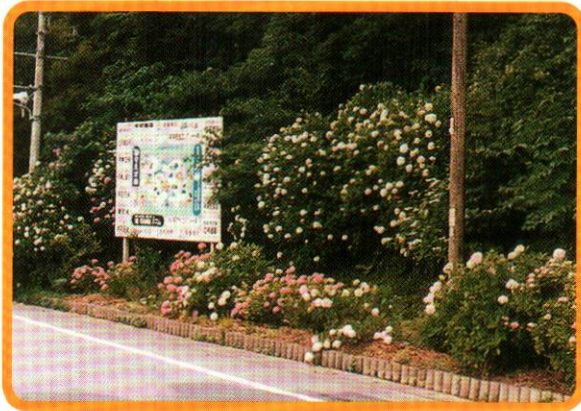


なんてん

ゆず



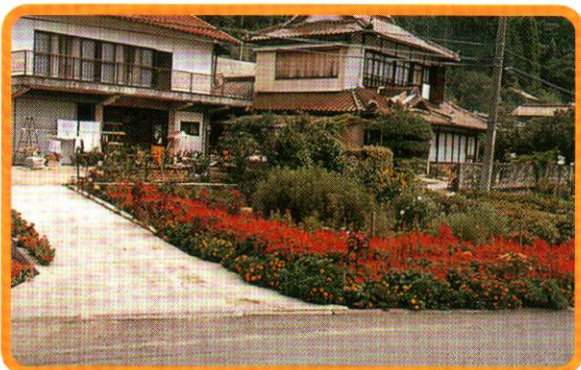
ダム公園（池ヶ原）



木村さんの家のあじさい（山田）

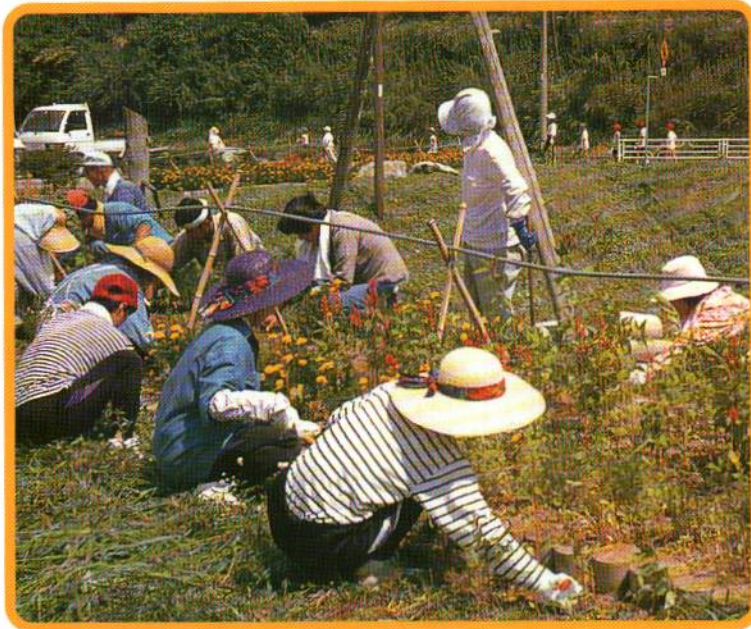


武井谷のつつじ



中原さんの家の花だん はいふく（灰福）

村の公園や花だんは、だれが、どのようなせわをしているのでしょうか。



花だんのせわ



子どもたちが気もちよく学校に、通えるように、きれいな花を育てています。



草や木はすぐのびるので、ときどき手入れがひつようです。



公園の草刈り作業

うつくしい村にするために、ほかにどんなどりょくをしているのでしょうか。

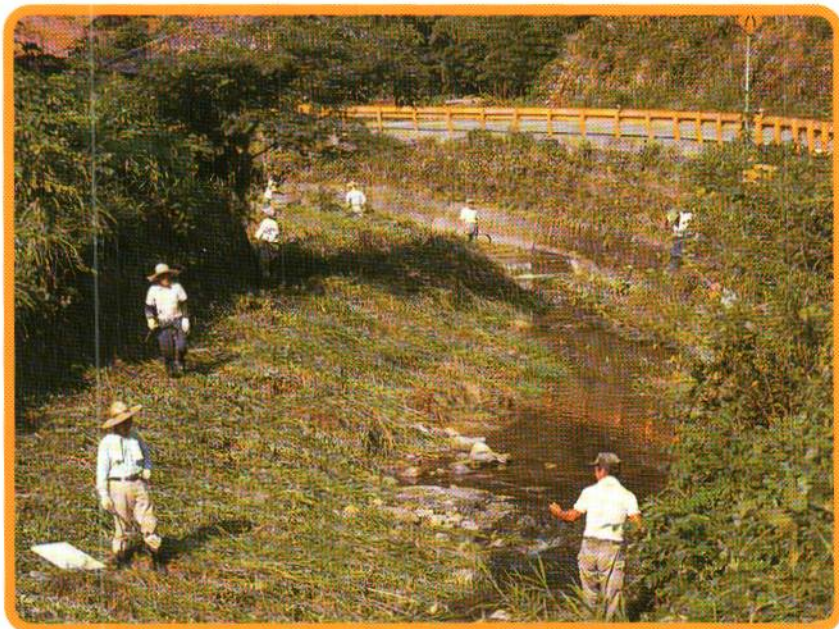


じどうかい ひろ
児童会のゴミ拾い

空きかんだけでなく、いろいろなものが落ちています。



川上のうつくしいしぜんを守るために、川もそうじをしています。



川のそうじ (遠谷川)

2.みんなの 公^{かん}みん館

どんな人が、どんなことで、り用
しているのでしょう。

り用しやすくするために、どんな
くふうをしているのでしょうか。

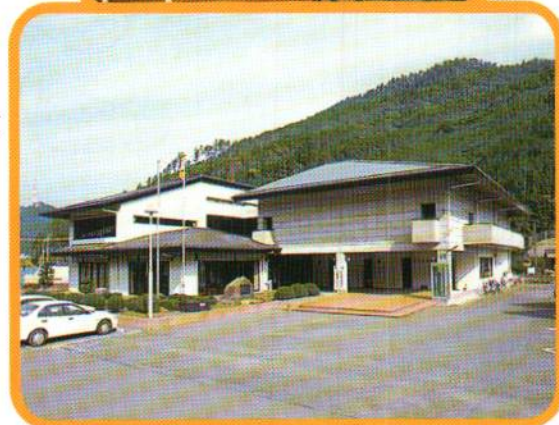
会議^ぎ



ほけん行事^{ぎょうじ}



外観^{かん}



一階平面図^{いっしょうへいめんず}

読書



もよおし物^{もの}



館長さんの話

公みん館は、みなさんのためにあります。
公みん館での活動かつどうをとおして、地いきの人
びとのむすびつきが深ふかまってほしいです。



か道教室



りょう理教室



茶道教室



あかね会 (草木染め)



大正ごとの会

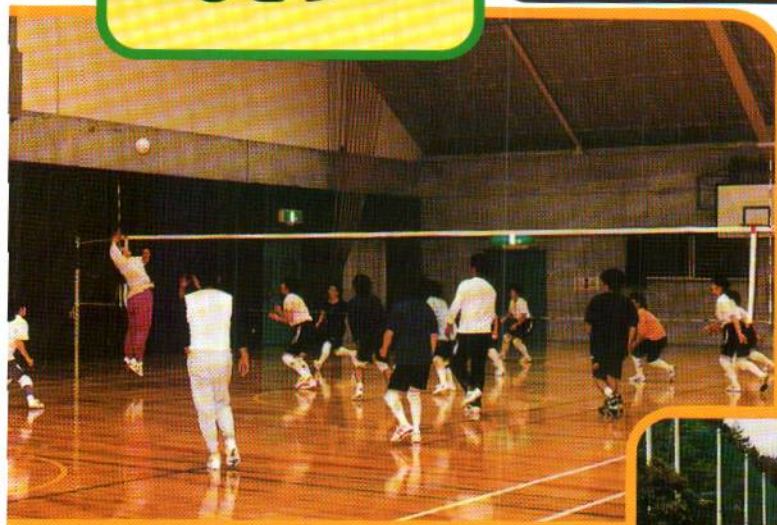
り用している人の話

この公みん館
があるおかげで、
楽しいサークル
活動をつづける
ことができます。



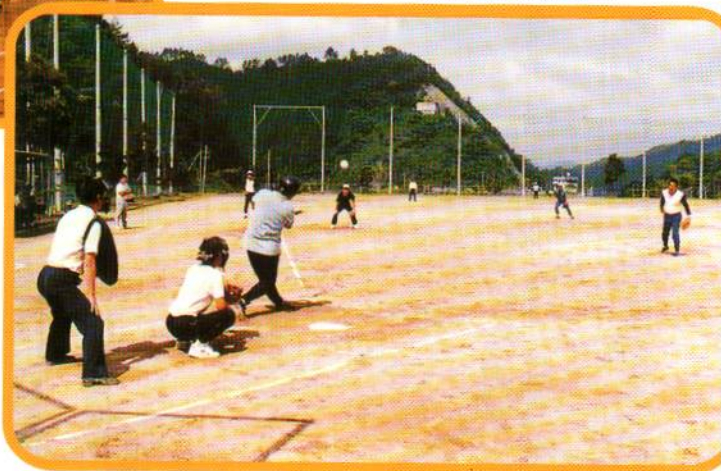
3. 村の いろいろな しせつ

そん ない
村内には、いろいろなしせつがあります。どんな人がどんなことでり用しているのでしょうか。

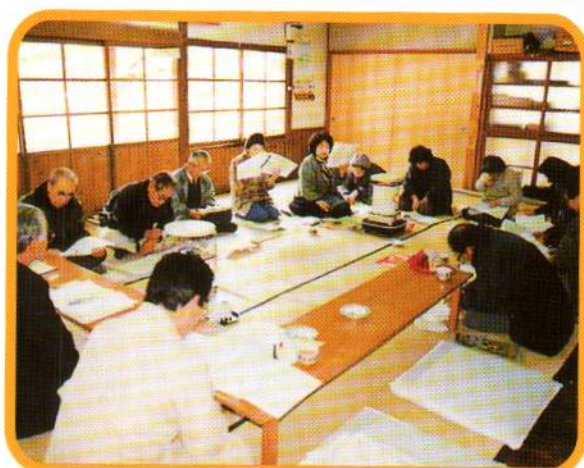


いくかん
体育館

みょうじんとううんどう
明神島運動公園



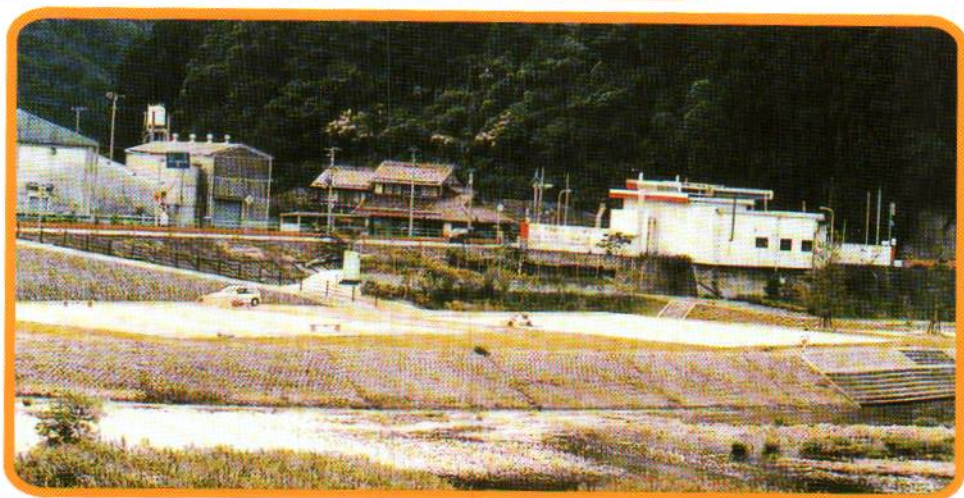
しんりょう所



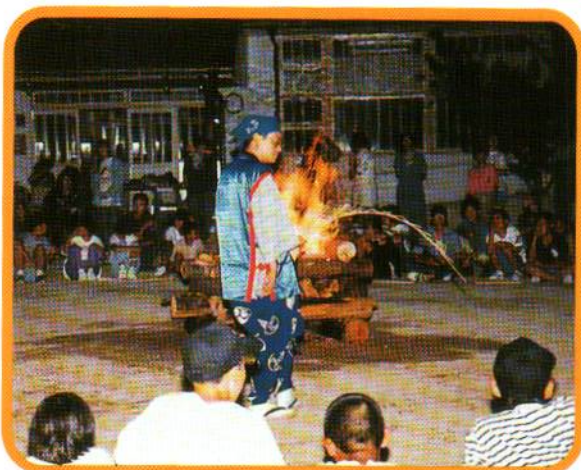
公会どう (遠谷)



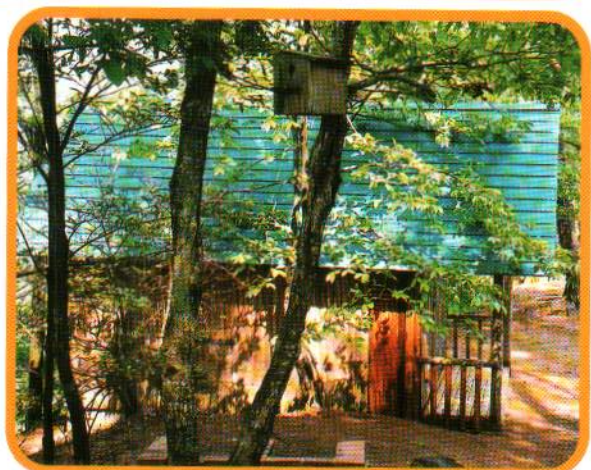
かせん公園
しらかみ
(白上)



ゲートボール場
(山田)



すぎの子村



たけいざみどり
武井谷緑の村



みんなが使うしせつは、どんなことに気をつけて使ったらよいでしょう。

2. わたしたちの村のようす



1. 学校の まわりの ようす

学校のまわりには、どこにどんなものがあるのでしょうか。





川上小学校

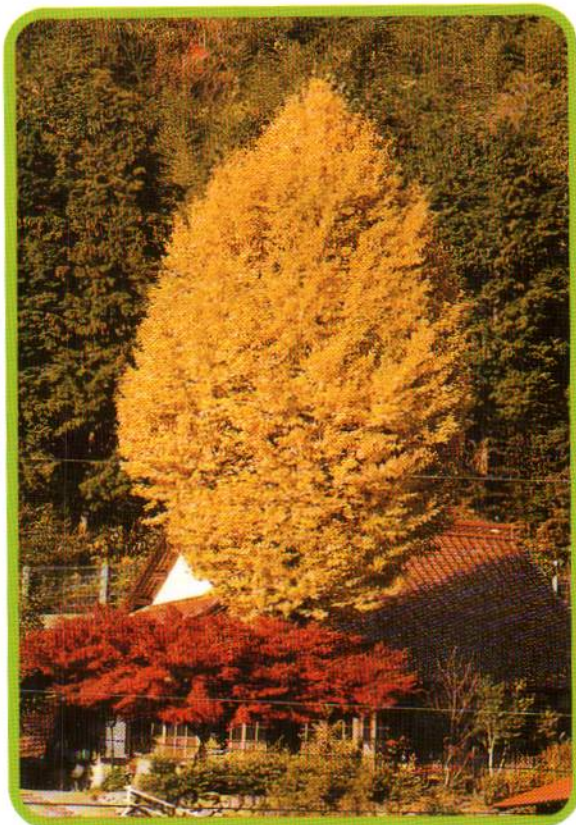
空から見てみま
しょう。



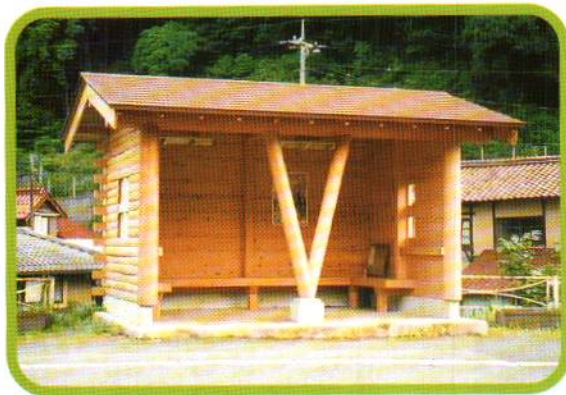
みんなで学校のまわりをたんけんしましょう。



どこにあるか
知っていますか。



ぎょくせんじ 玉泉寺のイチョウとモミジ (灰福) はいふく



いんば 筏場のバステい

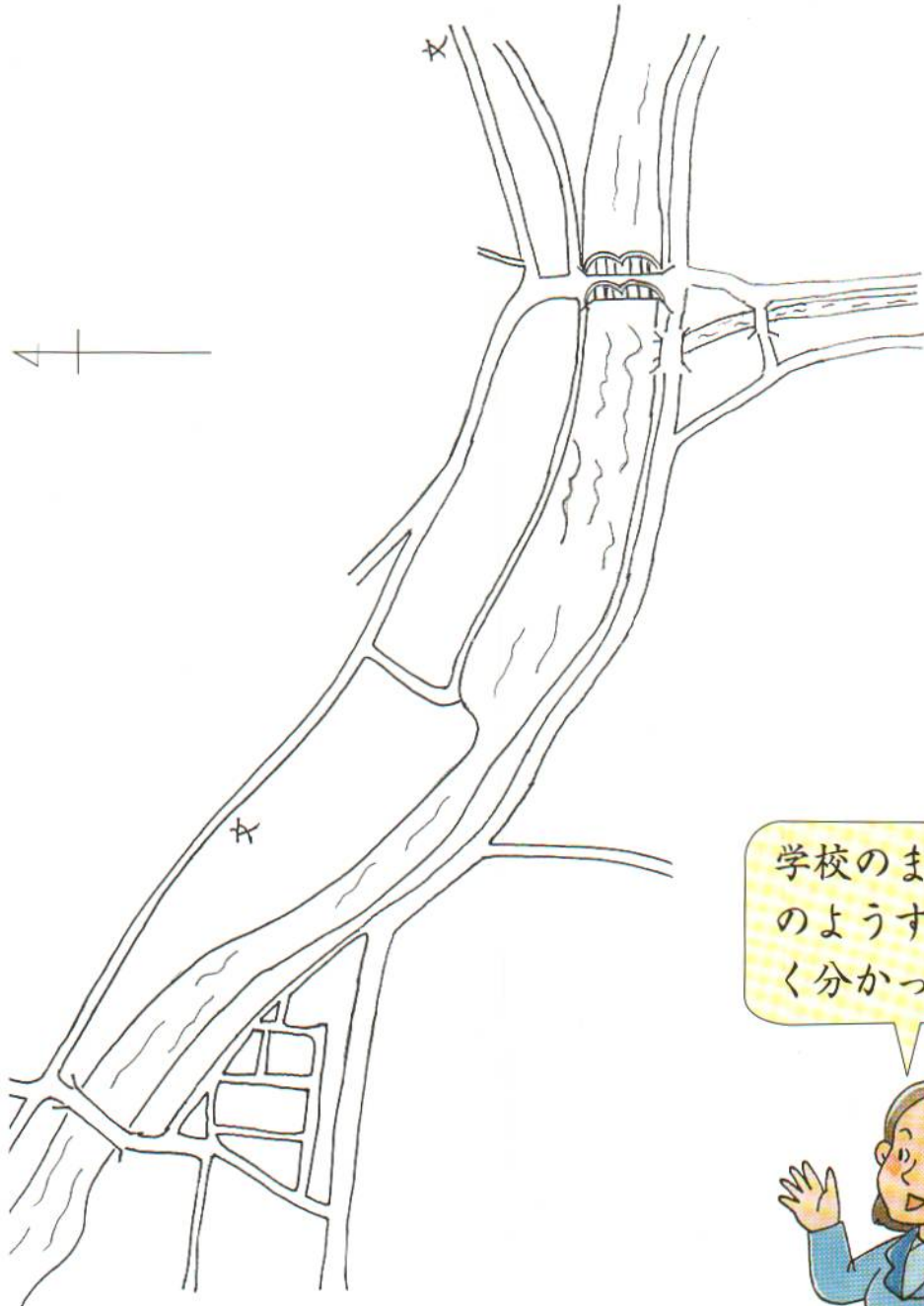


かじか 橋 (筏場)

あっ！
知ってるよ



たんけんするコースを決めてたんけんし、後で気づいたことを、絵地図にまとめてみましょう。



学校のまわりのようすがよく分かったね。



2. 村全体の ようす

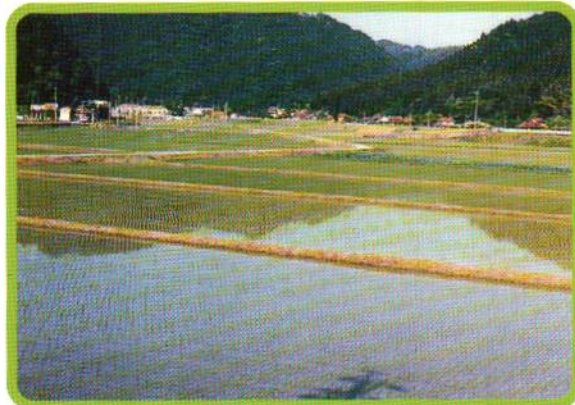
みんなが住んでいる川上村は、どんな村でしょう。村のようすを調べてみましょう。

(1) 田や畑の多いところ

田や畑の多いところは、どんなようすでしょう。



山田地区



山田地区の水田



相原の畑

(2) 住たくや商店じゅうの集ましょうてんっているところあつ

住たくや商店はどんなところにあるでしょう。



みのり
三徳地区



いかだば しょうてん
筏場の商店



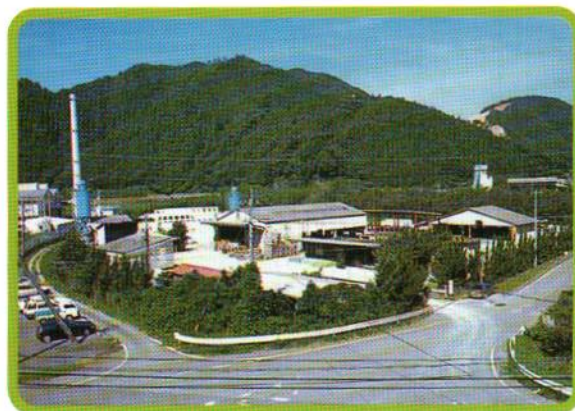
あいばら
相原の新しい住たく

(3) 工場のあるところ

工場は、どのあたりにあるのでしょうか。そこでは、
どんなものをつくっているのでしょうか。



しらがみ
く
白上地区



シイライゼイ
CCBの工場 (白上)



アルミネの工場 (白上)

(4) 山のせままっているところ

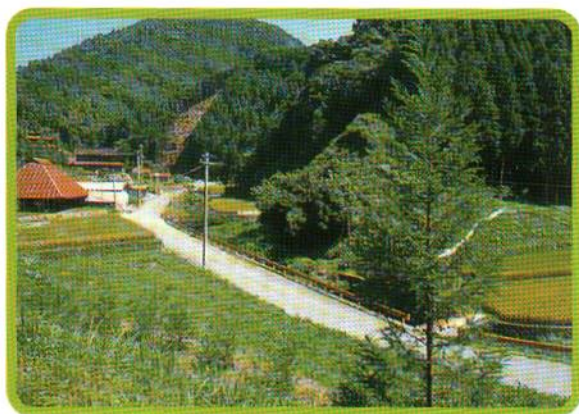
山のせままっているところのようすを調べ^{しら}ましょう。



遠谷地区



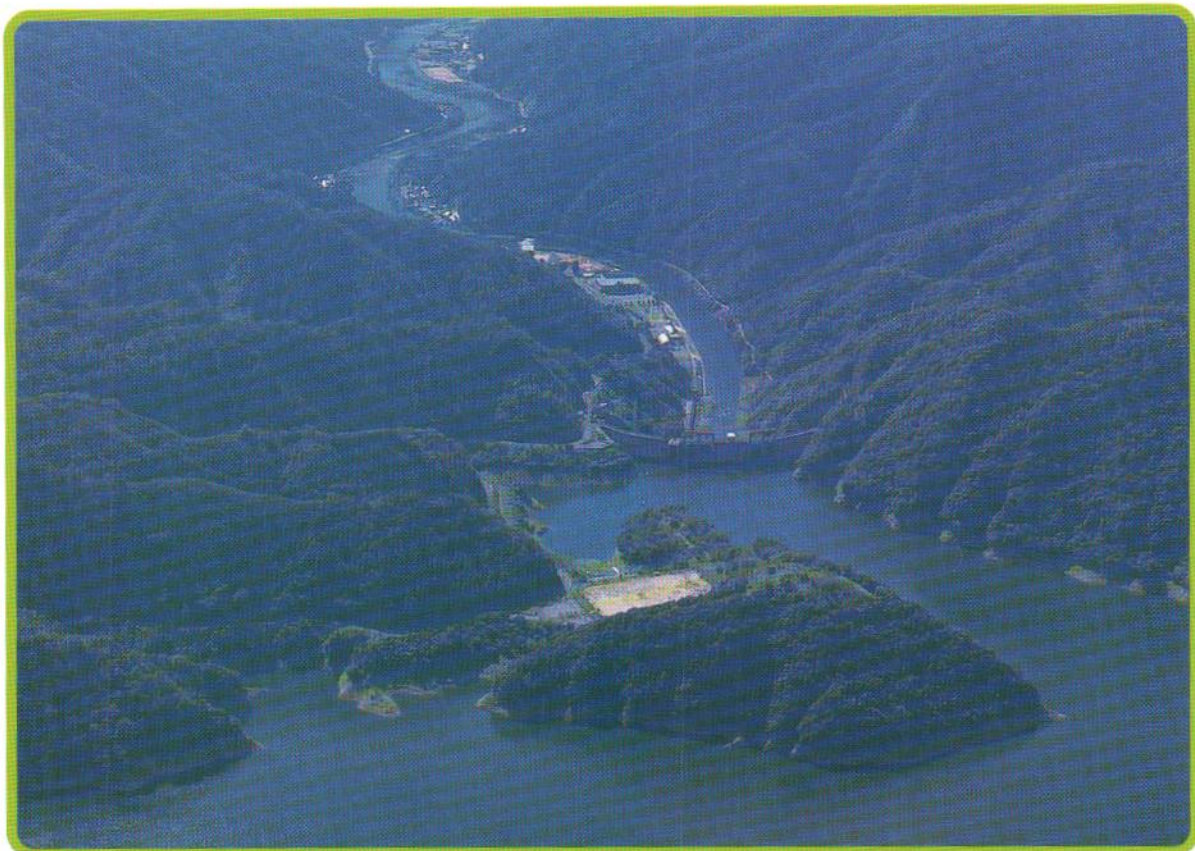
つばせ
椿瀬地区



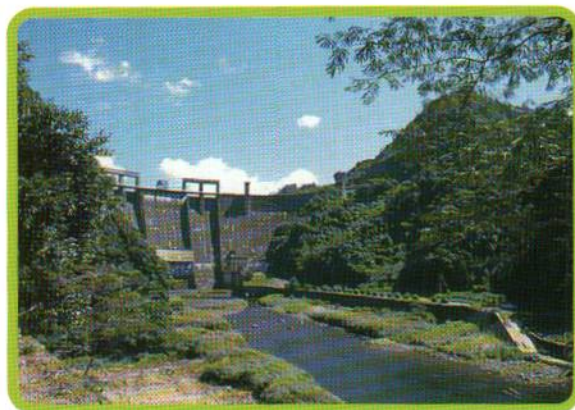
長谷地区

(5) ダムのあるところのようす

ダムがあるところのようすを調べましょう。



あぶ
阿武川ダムのまわり



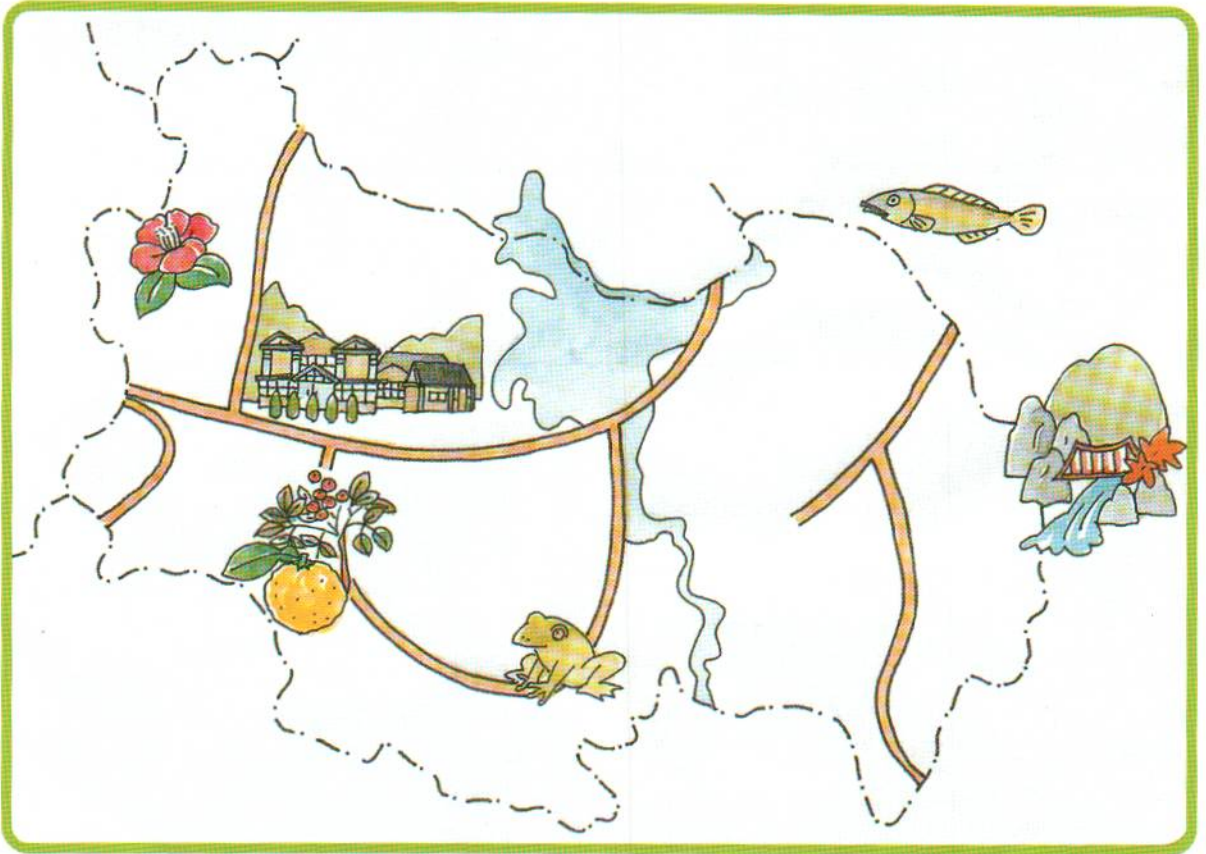
阿武川ダム



あふ
阿武川温せん（池ヶ原）

(6) ガイドマップづくり

あらわ 表ひらしたいものを決めて、ガイドマップを作ろう。



モリアオガエル



ナンテン



つばき
椿瀬のつばき

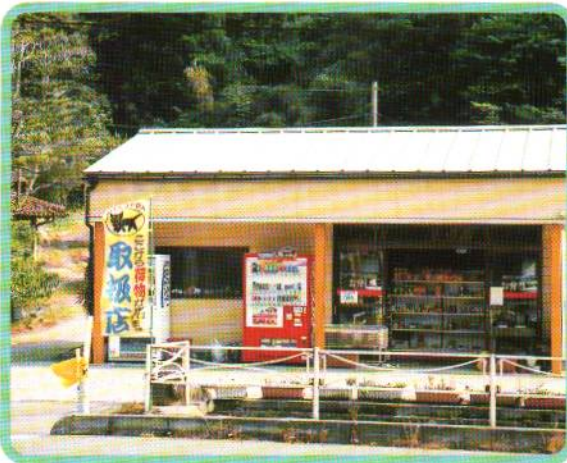
3. わたしたちのくらしと商店



1. よく行く店

わたしたちは、毎日食べる物やくらしにひつような物を、いろいろな店で買っています。買い物のようすを調べてみましょう。

わたしたちの家では、どこで、どんな物を買っているでしょう。



近くの商店



自動車じどうしゃで売りにくる店



萩ショッピングタウン



スーパーマーケット

わたしたちの家の1週間の買い物調しらべを表ひょうにして
みましょう。

買い物調べ

	近くの商店	自動車で売 りにくる店	ショッピング タウン	スーパー マーケット	商店がい
月 日(日)					
月 日(月)					
月 日(火)					
月 日(水)					
月 日(木)					
月 日(金)					
月 日(土)					

赤 食べ物やのみ物

赤 着る物やはく物

橙 にちようひん 日用品

緑 文ぼう具や本

黄 家具や電気き具

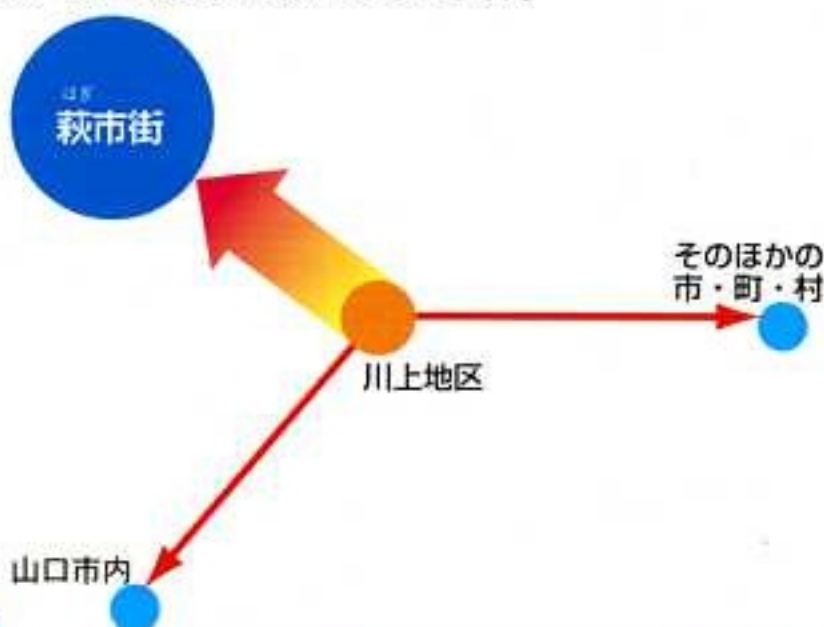
黄 そのほか



上の表から、私たちの家の買い物について、
どんなことがいえるでしょうか。

川上村の人たちがよく買い物をする所

川上村の人たちは、どこで買い物をしているの
だろう。



2. 近くの商店

近くの商店のようすを調べて
みましょう。



家の近くでは、どんな品物しなを売る商店が多いか調べてみましょう。

家の近くにある商店

ちく 地区名	しょうてん 商店名	売っている品物のしゅるい



あゆまつり (9月)



もみじまつり (11月)

商工会の おじさんの話



村内には、20の商店のほかにたくさんじぎょうしょの事業所があります。この人たちを中心ちゅうしんに川上村商工会をつくっています。

商工会では、9月にあゆまつり、11月にもみじまつりなどを行おこなって、村い外がいの人にもたくさん来てもらい、村がにぎわうようにしたり、とくぶんさん品ひんが売れるようにしたりしています。

3.スーパー マーケット

スーパーマーケットが、よくり
用されているのは、どうしてで
しょう。

よくりようされているわけを話し合っ
て、見学の手配を立てましょう。

いろいろな物
を売っている
からと思うよ。



買いやすいよ
うに、大きい物
でも、分けて売
っているからか
な。



よくこうこ
くを出して、
せんでんして
いるからかな。



広いちゆう
車場があるか
らと思うよ。



たくさんの品物

スーパーマーケットでは、品物がよく売れるように、どんな工夫をしているでしょう。





店の中には、たくさんの方がはたらいっていました。そこで、店の人に、たくさんしなものの品物を売るために、どんな工夫をしているのか、インタビューをしました。

品物をならべるおじさんの話



品物にも顔があってね、お客さんに、どんな品物がよく分かるように品物の顔をおもて表にして、ならべているんです。



それからね、こうこの品物を目につきやすいところに、ならべるようにもしているんです。このほかに、少なくなってきた品物を調べてちゅうもんし、お客さんがこまらないようにも気をつけているんです。

店長さんの話

お客さんにお店にきてもらったら、買いたい品物がなんでもそろえられるようにしています。また、カードをはっこうして、買い物をしてもらったとき、ね引きをする仕組みをつくっています。さらに、お買いどく商品しょうひんをつくって、お客さんによるこんでもらうようにもしています。



このほかに、菘市はぶしや菘市のまわりでとれるやさいや魚、この近くでつくられたかまぼこ、とうふ、こんにやくなど、地元のおいしい品物も、買ってもらうように力を入れています。



4. 萩市の 商店がい

萩市内には、たくさんの店がならんでいる通りが、いくつもあります。こうした通りを、商店がいと言います。

商店がいでは、店の人たちが集まって、商店しんこう組合をつくっています。組合では、みんなで話し合っ、お客さんをたくさんよぶ工夫をしているそうです。

田町商店がいしんこう組合では、お客さんをたくさんよぶために、どんな工夫をしているでしょう。



土よう夜市



たなばたまつり



こうこく



ちゆう車場

田町商店がいしんこう組合のおじさんの話



田町商店がいしんこう組合は、およそ50けんの商店でつくっています。組合では、大売り出しのかかりやスタンプのかかりやアーケードのかかりなどをつくって、たくさんのお客さんにきてもらう工夫をしています。

大売り出しは、土よう夜市、たなばたまつり、秋の萩焼きまつりやさい末セールなど10回ぐらい行っています。そのときには、アーケードにかざりつけをしたり、いろんなもよおしをしたり、抽選券を発行し、商品と交換できるようにして、お客さんに楽しみながら買い物をしてもらうようにしています。こうこくは17,000まいをくばっています。大型のイベントがもよおされるときは右の地図のはんいでこうこくを配ります。



5. ^{しな もの}品物が
つくられた
^{ところ}所

店で売られているたくさんの品物は、どこでつくられているのでしょうか。

品物の入っていたはこやラベルをみると、どこからきた物かがよく分かります。地図にまとめてみましょう。



じょうず
6.上手な
買い物

たくさんある品物の中から買うときは、どんなことに気をつけて、えらんだらよいでしょう。

たくさんいるかどうか考えると、よいと思うな。



ねだんが高すぎないか、見なければね。



いつまでおいしいのめるか、調べなくてはね。



体によいか、品しつやとく長を調べて、買うといいね。



家の方は、買い物をするときに、どんなことに気をつけて、上手に買い物をしているのでしょうか。また、今までに、買い物でどんなしっばいをしたことがあるか、アンケート用紙をみんなで作って、調べてみましょう。

いろいろな大きさの入れ物で、品しつ^{ひん}のちがった牛にゆうでは、どのようにしてえらんだらよいでしょう。

売られているたくさんの牛乳



4. 村の人びとの仕事^{しごと}



1. 村の農家^{のうか}で つくって いるもの

川上村の農家では、村のとく長を
生かした農さん物をつくっています。

川上村では、どんな農さん物が、どれくらいつく
られているのでしょうか。



↑ゆず



↑玉ねぎ



↓米



↓いんげん

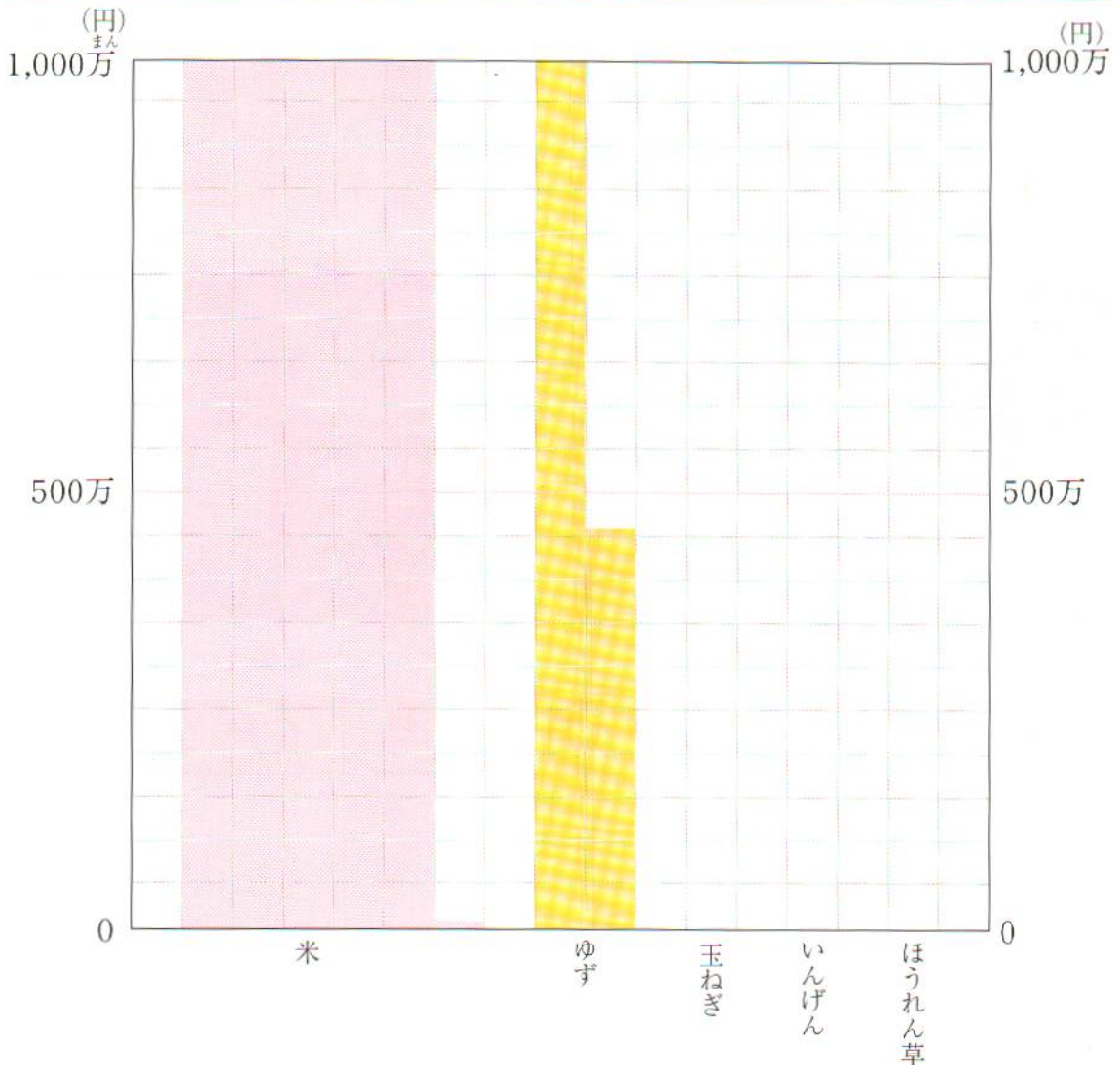


↓ほうれん草^{ほう}

調べた農さん物の生さんがくを、グラフにまとめてくらべてみましょう。

農さん物の生さんがく (平成13年度)

農さん物	米	ゆず	玉ねぎ	いんげん	ほうれん草
生さんがく	5,010万円	1,460万円	310万円	180万円	65万円



(1) 米をつくる

川上村では、たくさんのお米が作られています。
おいしいお米をつくるために、どんな工夫をしているのでしょうか。



もみまき (育びょうセンター)



しろかき



なえづくり (育びょうセンター)



田植え



川上村内の
米づくりのこ
よみをつくっ
てみましょう。

3月	4月	5月	6月	7月

農家のおじさんの話



6月ごろから田の水を3～4日間ぬいてかわかし、その後また水を入れます。こうすると、根のまわりに空気が多くいき、根がじょうぶになります。この方ほうは、くきがのびるのをおさえ、たおれにくいねをつくることにもなります。それに、かぶもよく分かれて、米のりょうもふえます。



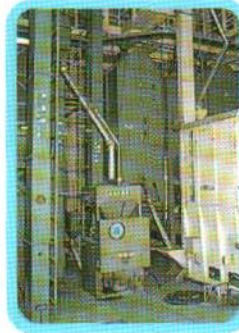
水のかんり



かりとり・だっこく



うんぼん
運搬



かんそう・もみすり (ライスセンター)

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

農家の米づくりのために、役場やJAでは、どんなことをしているのでしょうか。

中ノ原地区

ほ場整ひ前の田

ほ場整ひ後の田



きかい銀行



JAのおじさんの話

水田を広げ、道路や水路を整備することで、大型機械がつかいやすくなりました。作業時間が短くなり、農作業も楽になりました。

しかし、川上村では60歳以上の人が多く、農業をする若い人が少ないのがなやみです。

これからは、育苗センターやライスセンター、大型機械などを共同でつかい、品質の一定した、安全でおいしい米を作っていくことが大事になってきます。

(2) ゆずをつくる

川上村は、古くからゆずをつくっており、山口県内でも、主な^{おも}さん地になっています。

川上村では、どうしてゆずづくりがさかなのでしょう。



ゆずの自生地（遠谷）

村の気こうとかんけいがあるのかな。



ゆず畑

・気こう…^{おん}気温や雨のりょうなど。

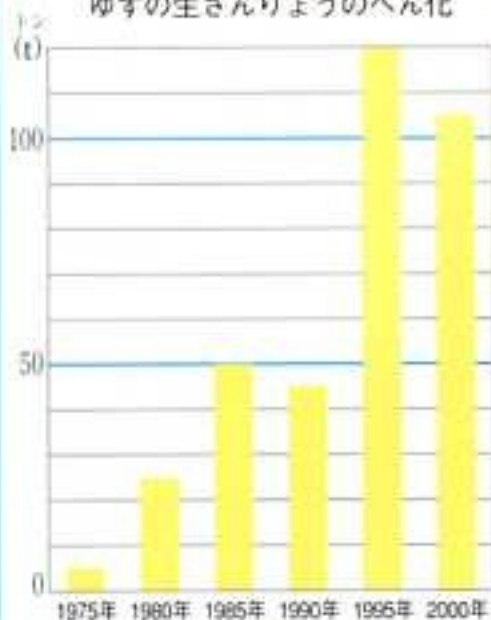


JAのおじさんの話

遠谷の金山は、ゆずの自生地として、国の天ねん記ねん物に指定されています。もともと、ゆずは村内のいたるところに自生しており、昼と夜の温度差が大きい村の気候は、ゆずのさばりに合っていました。また、ゆずの消費も年々ふえていたので、昭和38年から、なえ木の育てを始め、シイタケやウメにくわえて、村のとくさん品として、送り出すように力を入れてきました。おかげで今では、川上村のとくさん品として、一番にゆずがあげられるようになってきました。

・自生……ひとりではげんに、生えること。

ゆずの生さんりょうのへん化



ゆずづくりには、どんな工夫や苦労があるのでしょうか。



消どく



しゅうかく



ほれい庫でかん理

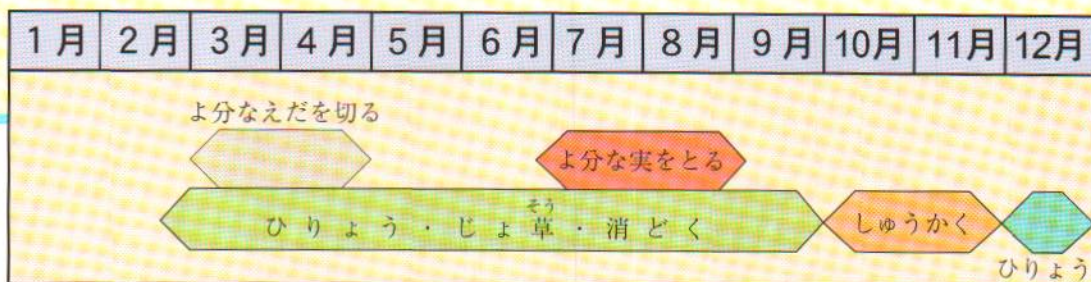


出か

農家のおばさんの話



一つ一つのゆずを大きく育てるためには、よ分な実をとったり、よ分なえだを切ったりする作業があります。また、よ分なえだを切るときに、『ゆういん』といって、えだを引っぱって広げる作業があります。こうすると、ゆずに日光がよく当たり、しつ^{じつ}のよいものができます。虫などがつかないように、消どくにも気をつけています。



川上村でとれたゆずは、どこに送られているのでしょうか。



JAのおじさんの話

形や大きさのそろったゆずは、生かとして出しますが、きずがあったり、形が悪いものは、かじゅうをしばって、すやクッキーなどのか工品に使っています。品しつだけでなく、見た目もきれいなものがないと高く売れないので、いろいろ工夫しています。

ゆずの送り先



ゆずのか工場 (袖和会)



ゆずを使ったせい品

(3) 木を育てる

川上村の山には、たくさんの木が育っています。
どうしてたくさんの木が植えられているのでしょうか。



しんりん 森林組合のおじさんの話

川上村は、平らな土地が少なく、ほとんどが山林です。そのため、たきぎや炭、シイタケ、木ざいなどを生さんして生活してきました。

また、県内では一番初めにスギの植林をするなど、川上村は昔から、林業がさかんでした。

川上村は、きりがよく発生するなど水分が多く、土地もこえていて、木を育てるのにてきしていたのも理由の一つです。



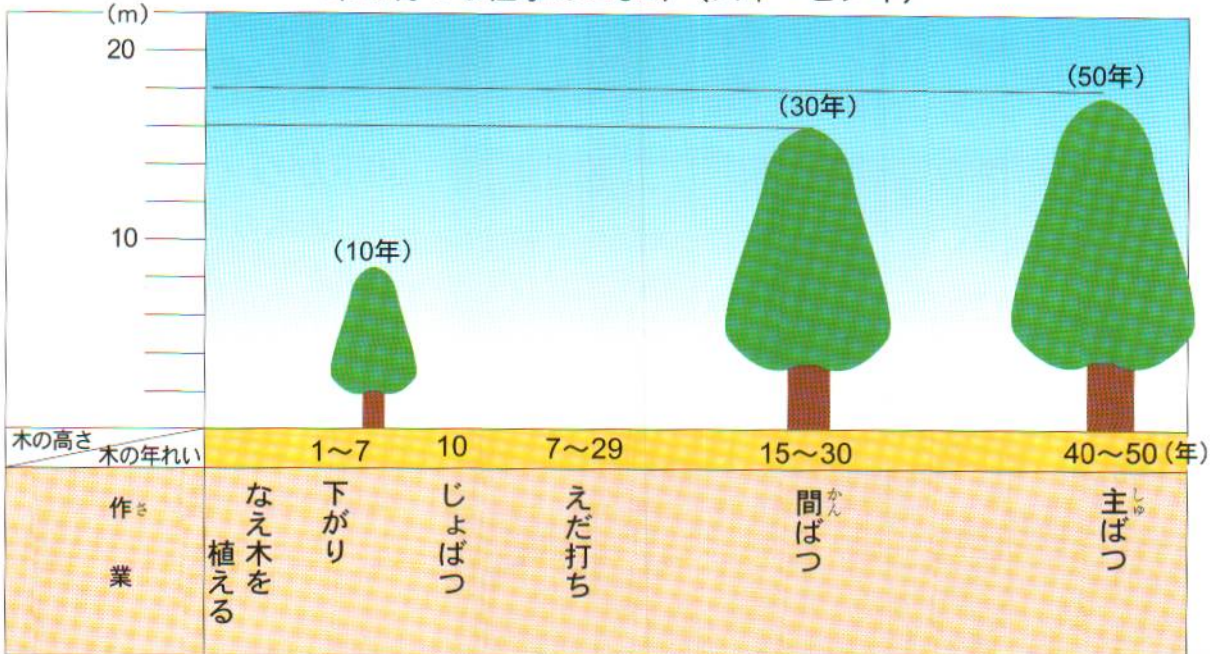
← 木炭づくり



シイタケさいばい →

木を育てる仕事には、どんな工ふうや苦ろうがあるのでしょうか。

木を育てる仕事のこよみ (スギ・ヒノキ)



・主ばつ……育った木を切ること。



①なえ木づくり

畑でなえ木を育てます。
山に植えるまでに、2～
4年くらいかかります。

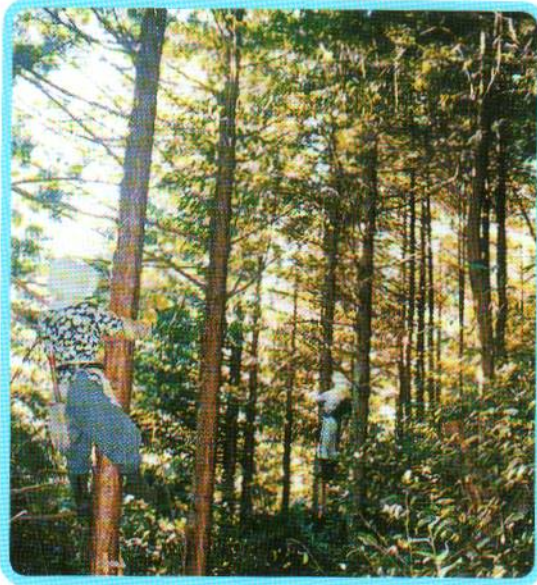
②なえ木を植える

きれいに整理した山に、
なえ木を一本一本植えて
いきます。植える時期は
春です。



③下がり・じよばつ

なえ木のせい長をじゃ
まするごつ草やつるを切
って、日光がよく当たる
ようにします。また、
じゃまな木や育つみこみ
のない木も切ります。



④えだ打ち



⑤間ばつ



⑥切りだし

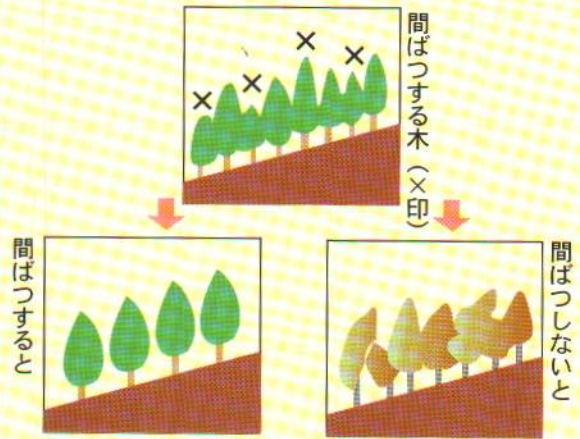
木が大きく育ったので、チェーンソーで木を切りたおし、ワイヤーなどを使って運び出します。

しんりん
森林組合の
おじさんの話



なえ木を植えた年からおよそ10年間は、山に生えてくる草やぞう木をかる下がり作業をします。その後およそ10年間は木のせい長をよくするために、えだ打ちや間ばつなどの作業をします。えだ打ちは、林の中に日光がよく入るようにするために、よ分な下えだを切り落とします。また、20年くらいたつと、木と木の間がきゅうくつになって、木のせい長が悪くなるので、間ばつといって、木を間引きます。

このように、山の木を育てるには、長い年月がかかり、なえ木を植えてから、切りだすまでに、だいたい40年から50年かかります。



森林組合は、どんな仕事をしているのでしょうか。



し 所長さんの話

森林の持ち主たちが、おたがいにきょうかし、うまく仕事はかどるようにつくった仕組みが森林組合です。だから、ほかに仕事があって、森林の世話ができない人にかわって、森林の世話をしたりします。

また、森林組合の人は、山のせん門家ですから、森林の持ち主に、正しい木の育て方などを教えたりします。

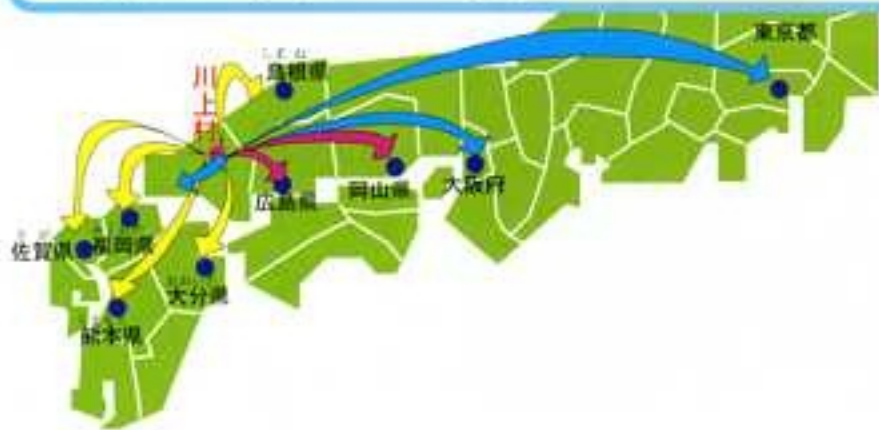


切りだされた木は、どこに送られているのでしょうか。

森林組合のおじさんの話

切り出された木は、丸太のまま市場に出かします。マツやスギの木は、県内を中心に九州の多くの県に送られています。また、ヒノキも県内を中心に岡山県や広島県に送られています。

育つのに100年い上かかったような木は、名木とよばれ、東京や大阪などにも送られています。



木材の出か先

- ← マツ・スギ
- ← ヒノキ
- ← マツ・スギ
ヒノキ・ケヤキ

2. 村の工場で つくって いるもの

川上村には、どんな工場があるのかまた、そこでは、どんなものをつくっているのか調べてみましょう。



しょうゆ (陽)



さけ (山田)



ポリジュース (池ヶ原)



アルミ (しらがみ)



それぞれの工場の原りょうはどこからきて、つくられたせい品はどこへ送られて行くのか、調べてみましょう。

5. かわってきた人びとの暮らし



1. 学校のうつりかわり

川上村にダムができるころまでは、村の子どもたちは5つの小学校に分かれて勉強をしていました。

昔の学校は、今の学校とくらべて、どんなところがちがっていたのでしょうか。

(1) 5つの学校が1つになるまでのようす



川上村には、ダムができるころまでは、川上小学校のほかに、笹尾分校・高瀬小学校・野戸呂小学校・立野小学校がありました。昭和53年までに、次々にとう合され、1つの学校（川上村立川上小学校）になりました。高瀬小学校をのぞくほかの分校や学校は、今もあとがのこっています。

高瀬小学校は、阿武川ダムができるときにダム湖のそこにしずんでしまいました。右の写真の『望郷の碑』は、みずうみのそこにしずんでしまった高瀬小学校をしのんで昭和46年に、望郷半島にたてられたものです。



望郷の碑

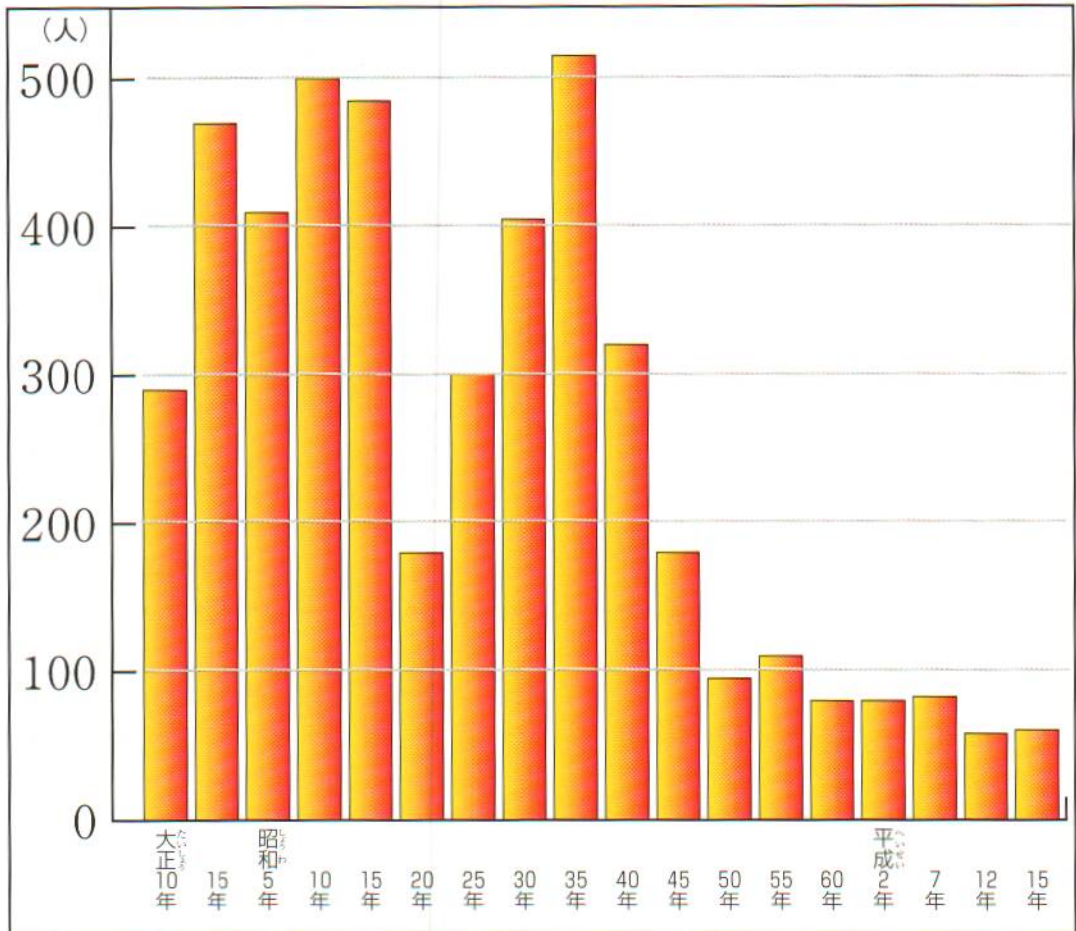


5つの学校があった場所

(2) じ童数のうつりかわり

川上小学校が1つになるまでに、じ童数はどのようにかわっていったのでしょうか。

川上小学校のじ童数のうつりかわり



上のグラフを見て気がつくことをまとめてみましょう。

- ① 一番多かったのはいつごろでしょう。
- ② 一番少なかったのはいつごろでしょう。
- ③ へりはじめたのはどうしてなのでしょう。
- ④ 全体のへん化のようすをまとめてみましょう。

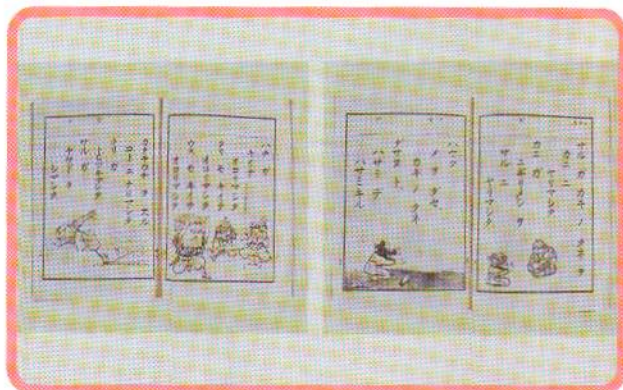
昔の学校では、どんな用具を使って勉強していたのでしょうか。

歴史民俗資料館には、昔を知る手がかりがたくさんあります。見学の計画を立てて調べてみましょう。

- ① 教科書
- ② つくえやいすなど
- ③ 着ていた服やはきものなど



阿武川歴史民俗資料館



カタカナで書かれた教科書（昭和8年から使用）



30年ぐらい前に使っていた
2人用のつくえ



明治43年3月のそつ業生
(立野小学校)

昭和6年3月のそつ業生
(川上小学校)



昭和22年4月の入学生
(川上小学校)

服そうは、きものから洋服にかわっていきました。

2.くらしの うつり かわり

(1) 昔の道具

昔の人たちの生活は、どんなよう
すだったのでしょうか。

昔の人たちのちえや苦ろうがったわってくる古い
道具は、どのように使われていたのでしょうか。



かまど



いろり



おばあさんの話

電化せい品がなかったころには、ご
はんをたくのにも、山から切ってきた
まきに火をつけてかまどでもやし、ご
はんをたいていました。たいたごはん
は、おひつに入れておくのですが、保
温がきかないので、冬はつめたいまま
食べていました。水は、山からのし水を台所のかめにためておいて、
その水をくみ取っては、すいじをしていました。そのころの生活を思
うと、今の時代は、本当にべんりになったと思いますね。



たらいでせんたく

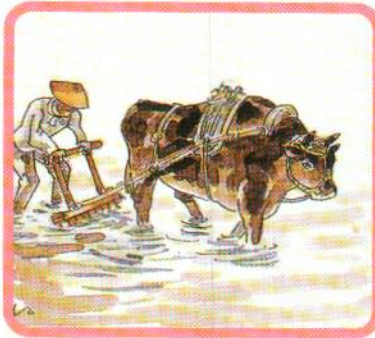
(2) 農家の仕事

農家の仕事は、今とくらべてどんなちがいがあったのでしょうか。

田植えのようす



あらおこし



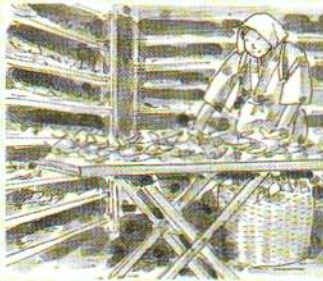
しろかき



手植えのようす

ようさんのようす

かいこにくわを
あたえている



マユをまぶしから
とっている



おじいさんの話

田の仕事では、牛や馬を使ってあらおこしをしたり、しろかきをしたりしました。朝早く、夜が明ける前から仕事に出かけ、夕方おそくまで家には帰れませんでした。とくに、田植えやいねかりなどは、何けんかの農家がきょう同でしなければ、間に合いませんでした。かまを使って一かぶ一かぶ、かり取っていく仕事も、かたやこしがいたくなつて、とつてもつらい仕事でしたね。今のように、自由になるひまな時間はありませんでした。夜は、おそくまで、かまや道具の手入れをしていたのをおぼえています。

(3) 川上村の100年のあゆみ

川上村のようすや人びとのくらしのようすは、この100年の間にどのようにかわってきたのでしょうか。

(ア) ようさんが始まったころ (80~100年前)

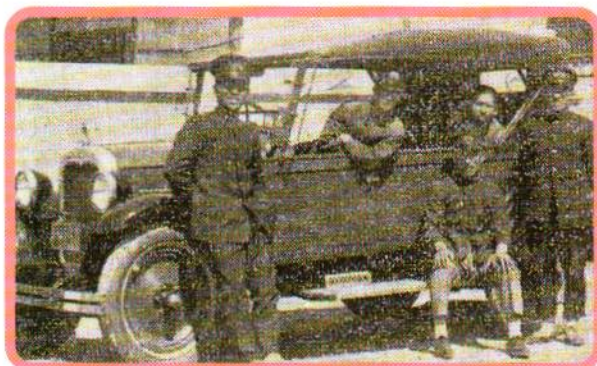


マユの集め

今からおよそ100年前、立野地区ではじめてようさんが始まりました。農家ではかいこをかって、たくさんマユを出していました。

川上村のようさんは、県内でもさかんな所になりました。

大正元年、防長バスが小郡と萩の間を走るようになりました。バスは6人乗りでしたが、それまでのかごや人力車、客馬車は、バスにかわって、しだいにすがたを消していきました。



乗合自動車 (防長バス)

おばあさんの話



ダムができるころまで、村ではかいこをかっていました。夏の暑いときに、くわの葉をせ中のかごいっぱいにつみとってきて、かいこに食べさせるのが大へんでした。車もない時代だったので、子どもたちもよく手つだってくれました。

かいこは、くわを食べれば食べるほど大きくなり、とくにマユをつくりはじめる前に、一番たくさん食べていました。いそがしいときは、夜中の間ずっと世話をしたり、くわの葉をつんだりして、気がついたら夜が明けていたということもよくありました。

(イ)電とうがついたころ (60～80年前)

村にはじめて電とうがともったのは、今からおよそ80年前の大正6年のことでした。それまで夜の明かりは、油あぶらを使うあんどんやカンテラ、ランプだったのです。うす暗いランプの明かりから、明るい電とうにかわったことで、くらしもずいぶんべんりになりました。



おばあさんの話



はじめてともった電とうは、はだか電球でんきゅうにかさをつけた小さいものでしたが、とてもかんげきしたことをおぼえています。それまでのランプの明かりはうす暗くて、食事もうす明かりの中でしていました。それに、ランプはすすが出るので、家の中がすすでよごれたり、顔がすすで黒くなったりすることもありました。

大正11年には阿武川あぶ下り客舟組合きやくせんがつくられ、高瀬たかせから萩市はぎの松本までかん光客を運び、川下りはこでにぎわいました。ちょうど同じころ、長門峡ちやうもんきやくが名勝地しやうに指定されました。

このころ、川上村の人たちが萩へ出かけるときは、歩くか、木炭もくたんなどの荷物に もつを運んでいた川舟あふねに乗せてもらうかしていたそうです。川下りの川舟は、ねだんが高くて川上の人たちはほとんどり用しませんでした。

おじいさんの話



子どものころ、川べりあふで遊んでいるそばを、川下りの川舟がよく通っていたのを思い出します。また、村の人たちが大雨の後、川舟の水路みちを守るために、流ながされてきた大きい岩などをのける仕事をよくしていたのをおぼえています。

(ウ)せんそうがはげしかったころ(40年～60年前)

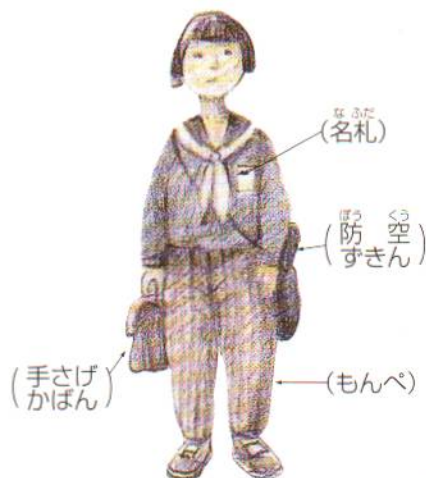
昭和16年(およそ55年前)には、乗合自動車(バス)も長門峡まで走るようになり、川舟はあまり使われなくなりました。

同じ年、日本の国は、アメリカやイギリスを相手にせんそうを始め、川上村からもたくさんの方がへい士として、せん場へ出ていかなければなりませんでした。

せんそうがはげしくなるにつれ、村の生活のようすも少しずつかわってきました。

食べる物もだんだんと少なくなり、篠場の川上小学校の運動場はいも畑にかわり、いもがゆなどを食べるが多くなりました。

昭和20年には、せんそうは終わりましたが、平和やゆたかな生活にもどるのには、しばらく時間がかかりました。



おじいさんの話

村のわかい者はせんそうに行ってしまったので、村にのこったのは、女と子どもと年よりが中心でした。

食べる物もだんだん少なくなり、豆ごはんやいもがゆ、ふきやわらびなどをたいたものが中心で、白いごはんを食べることはあまりありませんでした。白いごはんを食べたのは、お正月とかおぼんとか、お祭りのときぐらいでした。子どもは学校に行っても、農作業ばかりしていました。

生活が苦しかったのは、せんそう中よりも、せんそうが終わってからでした。

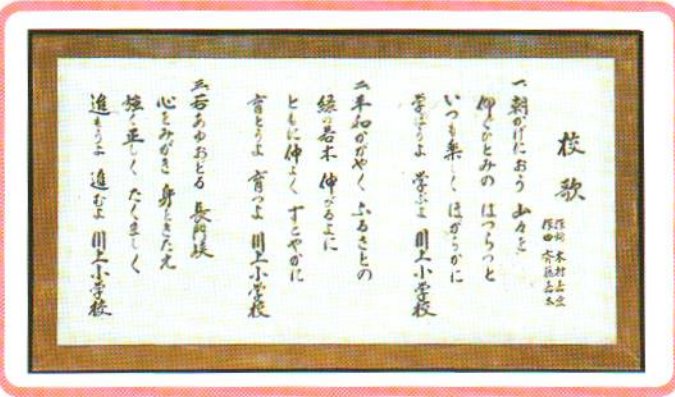
(エ)村にテレビがはいったころ(20~40年前)



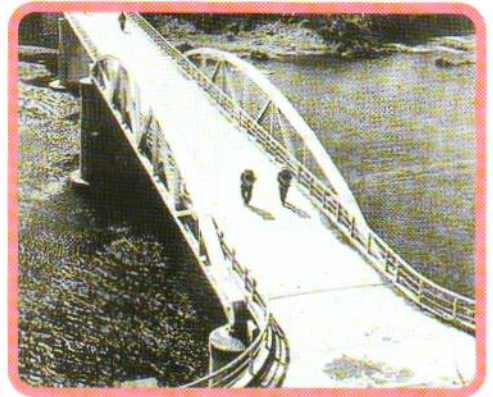
前の川上中学校

せんそうが終わってしばらくすると、村もしだいに活気を取りもどしてきました。

昭和25年には川上中学校の校舎しやうができました。



昭和36年につくられた小学校の校歌



昭和31年にできた小郷橋

このころ、村にしんりょう所ができ、村えい電話もつきました。何よりも人々のくらしに大きなえいきょうをあたえたのは、テレビではなかったでしょうか。



テレビをはじめて見たおとうさんの話

はじめてテレビを見たのは東京オリンピック(昭和39年)のころだったね。小学校のてい学年だったよ。14インチの小さな白黒テレビだったけど、遠くのことが目の前で見れるのが、ふしぎでたまらなかったね。番組はあまり多くなかったけど、プロレスやすもうを本気で見たことをよくおぼえているよ。オリンピックでの日本せん手の活やくに、一生けんめいテレビの前で、はく手かきを送っていたね。

(オ)阿武川ダムができたころ (10~20年前)

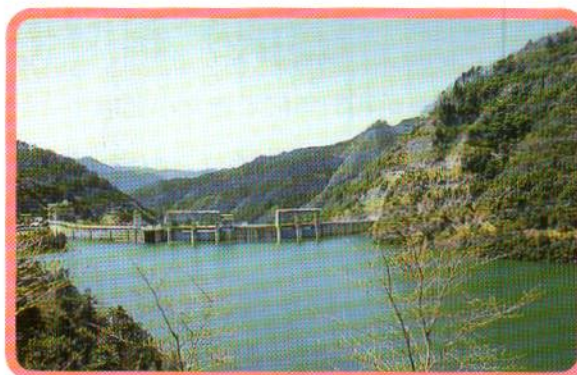
昭和41年と47年の二度の集中ごう雨で、村全体が大きなひがいを受けました。



ダムができたことによって、大雨に対する村人のきょうふはなくなり、安心して生活できるようになりました。

集中ごう雨のときの村人の話

昭和41年8月19日、朝6時ごろふり始めた雨で、川の水が見る見るましてきました。江舟地区では、防長バスが川に流され、筏場でも昼すぎごろから、家のゆか上まで水が入ってきました。大切なものは、できるだけ2階に運びましたが、1階にあった家具などはほとんど流されてしまいました。水が引いた後も家中どろだらけで、とってもふえいせいでした。水がこんなにこわいものだとは思いませんでした。



阿武川ダム



川上村公みん館

昭和54年には新しい公みん館ができ、次の年から川上村ふるさとまつりも始まり、村人のつどう大切な場所となっていきました。

3. 村の 古いもの さがし

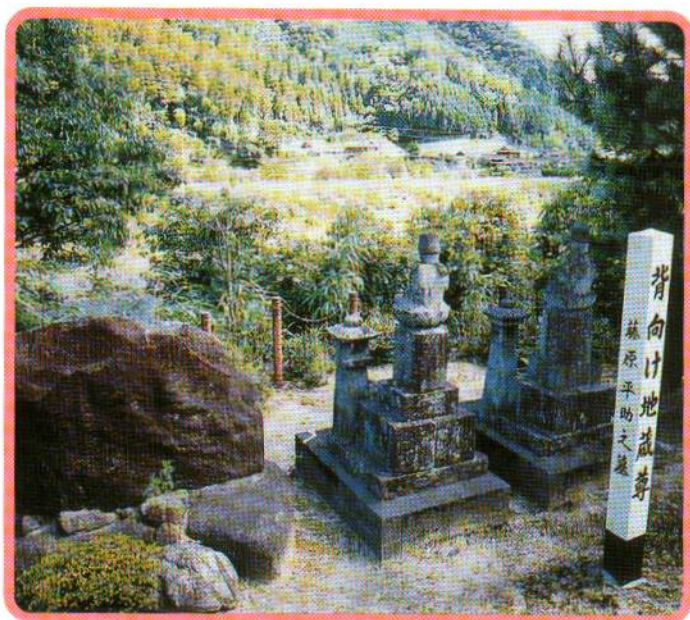
村に古くからのこっているものや
祭りなどを調べてみましょう。

(1) 昔のようすや人々のねがいをつたえるもの

村に古くからのこっているものは、昔のどんなようすや人々のねがいをつたえているのでしょうか。



薬し地ぞうそんほか (横坂)



背向け地ぞう (相原)



水がいのひ (江舟)



六地ぞう (惣ノ瀬)



水がいでなくなった人の
むえんほとけ (佐古)

(2) 昔からつづいている行事

昔からつづいている祭りや行事には、どんな言い
つたえや人びとのねがいがこめられているのか調べ
てみましょう。



的まつり（4月29日）



● 的まつりの起こり

昔、惣ノ瀬のおくのおおぎ落のたきに大うなぎが住んでいた。ある夏の大こう水で、惣ノ瀬川に流れ出た大うなぎを、里人がころして食べてしまった。すると、大うなぎのぼうれいが化け物となってあらわれ、里をおそった。やっと生きのこった三人は、神明さまにおいのりして、その化け物を弓矢でたいじした。それ以後、里人は神明さまに感しゃし、的まつりを行うことを決めた。的を化け物になぞらえ、目・頭・どうを12人の若者が次々に矢でいるというものである。

●遠谷の神楽まい

遠谷の神楽まいは村の文化ざいに指定されている「悪魔ばらい」のまいです。作物が豊作であることを願い毎年10月27日に行われてきました。

ほぞん会の人たちが、村の若者に受けついでもらおうと、いろいろ活動しておられます。



神楽まい (10月27日)



義民おどり

●義民おどり

「義民おどり」も川上村の無形文化ざいの一つです。

このおどりは、相原の道路ざいにある「平助・権太の墓」に由来するものです。

江戸時代に、菽の代かんと町人が手を組んで、橋本川の上流をせき止めて水車場をつくったため、川がひ上がり、川上からのいかだが使えなくなりました。こまった村人は話し合い、水車を打ちこわすことにしたのですが、そのことが役人に知れ、代表の平助と権太がとらえられて、うち首にされてしまいました。村人はこの二人をしのんで義民音どをつくり、ふり付けをして、おぼんにおどり始めたのが「義民おどり」の起りです。

6. 住みよいくらしをささえる



1.わたしたち のくらしと 水

わたしたちが、毎日いろいろなことに使っている水について調べてみましょう。

わたしたちのくらしの中で、どんなことに、どのくらいの量の水を使っているのでしょうか。

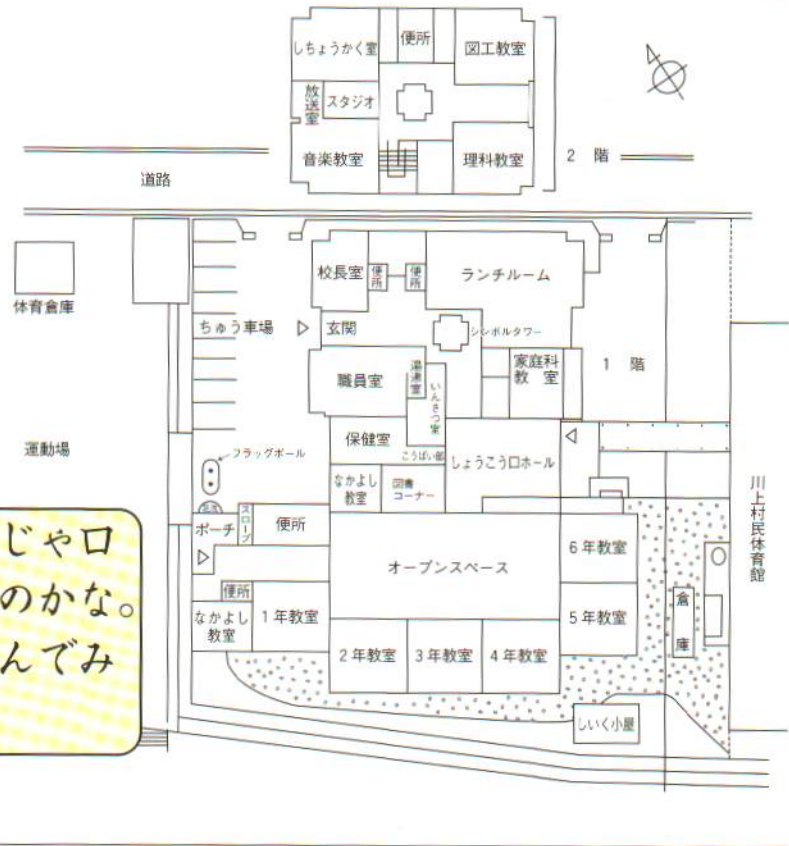


(1) 学校で使われる水

川上小学校の水は、どこからきているのでしょうか。

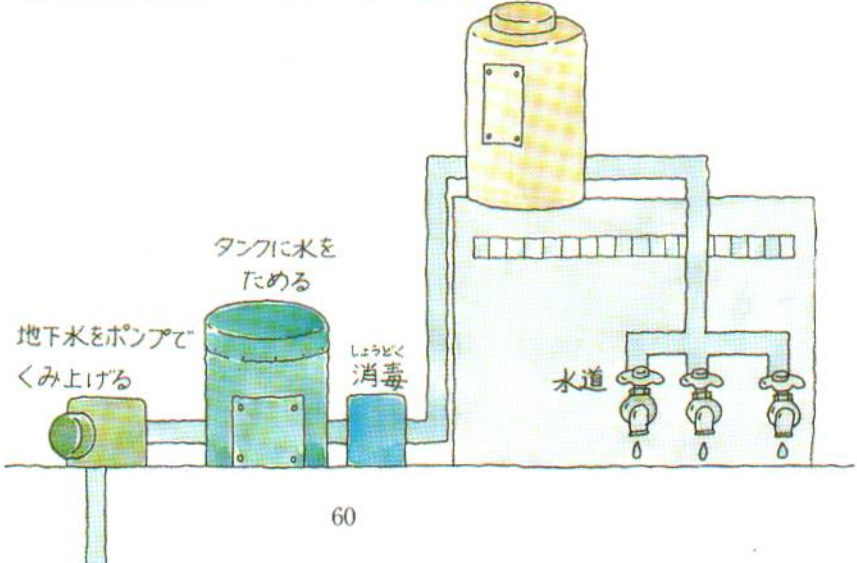


貯水タンク



学校には、じゃ口
がいくつあるのかな。
地図にかきこんでみ
ましょう。

学校の水道のしくみ



(2) 村で使われる水

水道の水は、どこからきているのでしょうか。

集落共同給水しせつ

	水道名	できた年	給水区いき		水道名	できた年	給水区いき
①	白上水道	昭和45年3月	白上団地	⑥	灰福水道	昭和49年4月	灰福
②	佐古	〃 47年3月	佐古団地	⑦	筏場	〃	筏場
③	岡	〃 48年5月	岡	⑧	山田	昭和55年4月	山田
④	木ノ瀬	〃	木ノ瀬	⑨	相原	〃 58年	相原
⑤	舟戸	〃	舟戸・熊谷	⑩	堂河内	平成3年	堂河内
				⑪	相原団地	〃 8年	相原団地

《川上村図》



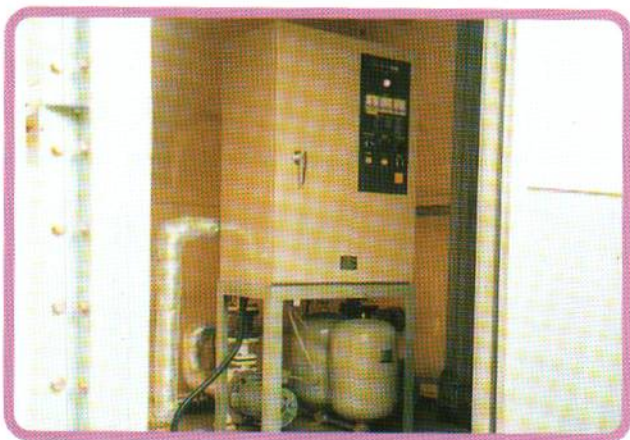
川上村では、昭和45年に、白上団地に阿武川の水を利用して、「集落共同給水しせつ」がつけられました。その後、平成8年までに、11の区いきに給水しせつができました。共同給水しせつでは、地下水を貯水場にくみ上げて、そこから地下の水道管で、それぞれの家まで水を送ります。



給水タンク（灰福）



貯水そう（堂河内）



水をくみ上げるポンプ



集落共同給水しせつのないところでは、飲^のみ水を
どうしているのでしょうか。



打ちぬきポンプ



井戸のポンプ

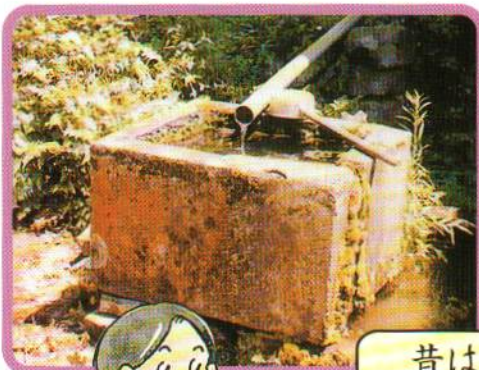
川上村の地区の中には、ボーリングをして、ポンプでくみ上げた水を使っている家庭や、井戸水をポンプでくみ上げて使っている家庭もあります。

役場の人の話



川上村では、飲料水^{りやうすい}をかくほすために、共同の給水しせつ^{きゅうすいしせつ}を利用している地区があります。しかし、地区によっては、家と家のはなれていて、水道を引くのにお金がかかりすぎるところもあります。このような地区では、何けんかの家がいっしょに飲料水^{りやうすい}を使えるようなせつびをつけているところもあり、役場ではそれをほ助しています。

山水



手おしポンプ



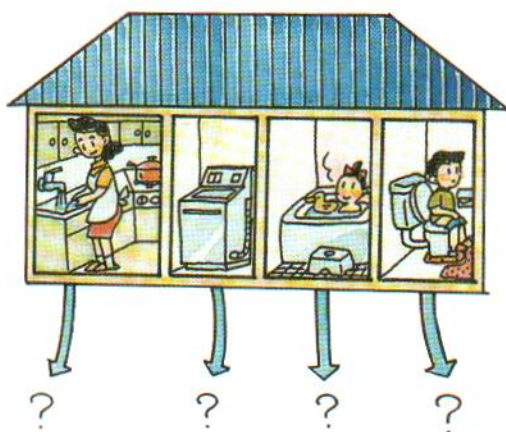
昔は山水を使ったり、井戸水を手おしポンプでくみ上げたりしていたところもあったそうです。

(3) 水のゆくえ

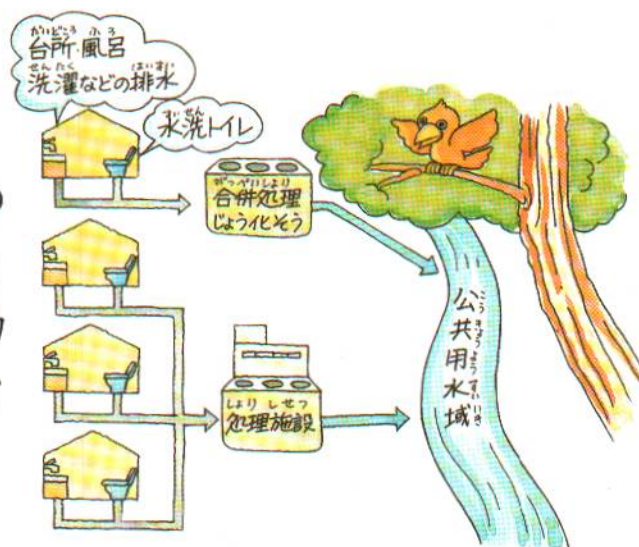
わたしたちが使った水は、どこへ行くのでしょうか。



三徳地区農業集落排水施設



川上村では、集落はい水の施設を作ったり、家庭にじょう化そうをつけるときにはほ助をしたりして、川をよごさない努力をしています。



川や海をよごさないために、わたしたちができることを話し合ってみましょう。

2.わたしたち のくらしと ごみ

わたしたちが毎日だしているごみ
について調べてみましょう。

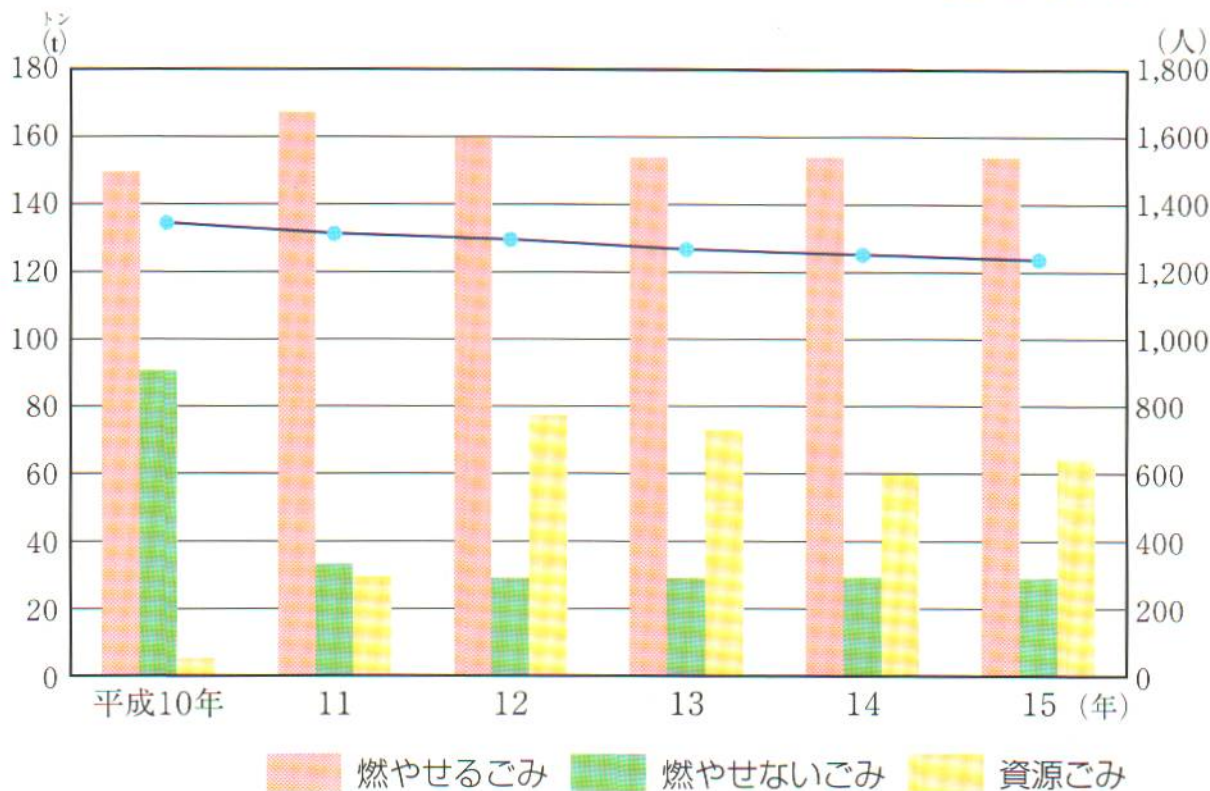


(1) ごみの種類と量

わたしたちの家から、どんなごみが、どのくらい
出ているか調べてみましょう。

	ごみの種類	ごみの量
燃やせるごみ	・ ・ ・	
燃やせないごみ	・ ・ ・	
しげんごみ	・ ・ ・	

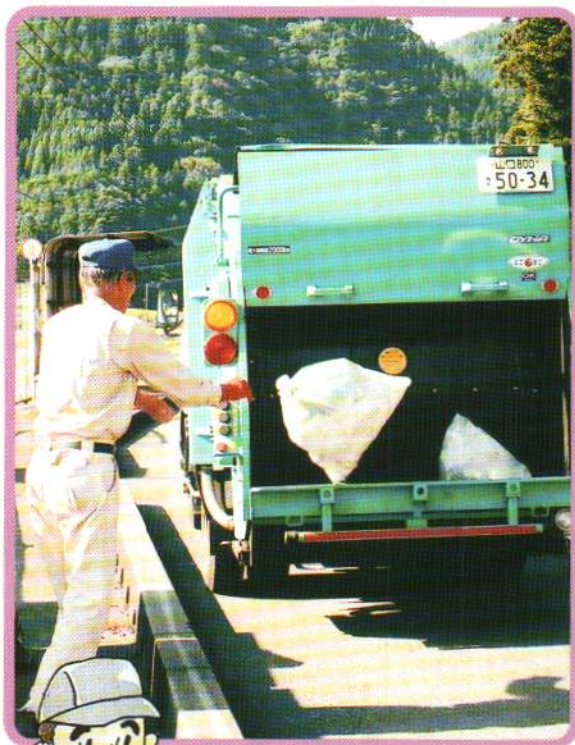
集められたごみの量と人こうのうつりかわり (川上村役場調べ)



	ごみの種類	ごみの量
ベ ッ ト ポ ト レ イ	・ ・ ・	
そ の ほ か の プ ラ ス チ ッ ク	・ ・ ・ ・	
缶 ・ び ん	・ ・ ・	

(2) ごみを集める

ごみは、だれが、どのようにして集めているのでしょうか。



ごみしゅう集車（パッカー車）



各家庭に配布されたごみの分別表

ごみを集める人の話



川上村のもやせるごみを集める仕事は、げんざい、4人で行っています。もやせるごみは、4月から11月までは週2回、12月から3月までは週1回、2人ずつ交代で集めています。村内には、約60か所のごみ置き場があります。ごみしゅう集車で回ります。ごみを出すときには、特に生ごみの水をよくきって出してもらえると助かります。

ごみの中には、きれいにしたり作り直したりすると、まだ使える物がたくさんあります。そこで、ごみを缶、びん、紙パック、ペットボトルなどの種類ごとに集めることが村で決められています。

(3) ごみの行き先



もえるごみは、萩市のせいそう工場に運ばれます。

このせいそう工場には、萩市をはじめ、3つの町、4つの村のもえるごみも運ばれ、処理されています。

(4) 萩せいそう工場の見学

せいそう工場では、たくさんのごみを処理するために、どんな工夫をしているのでしょうか。



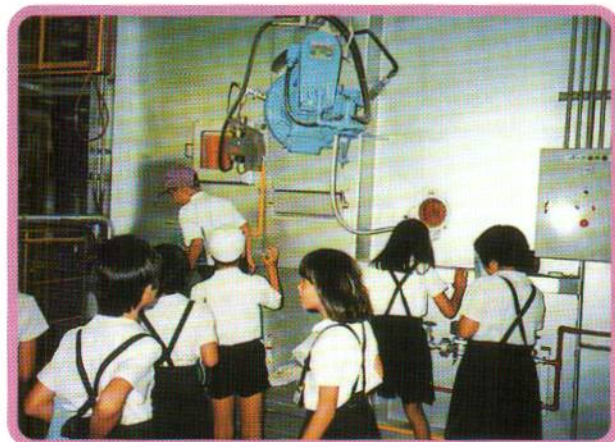
中央せいぎよ室



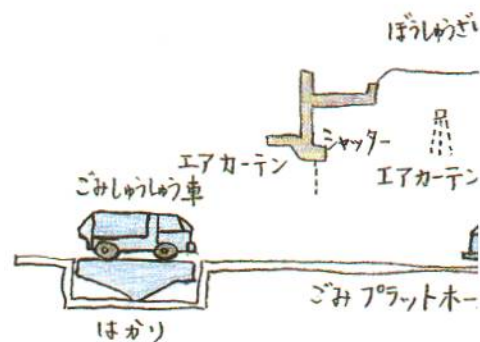
しょうきゃくろの中



ごみしゅう集車 (パッカー車)



しょうきゃくろ



ごみ
灰
空気
ガス

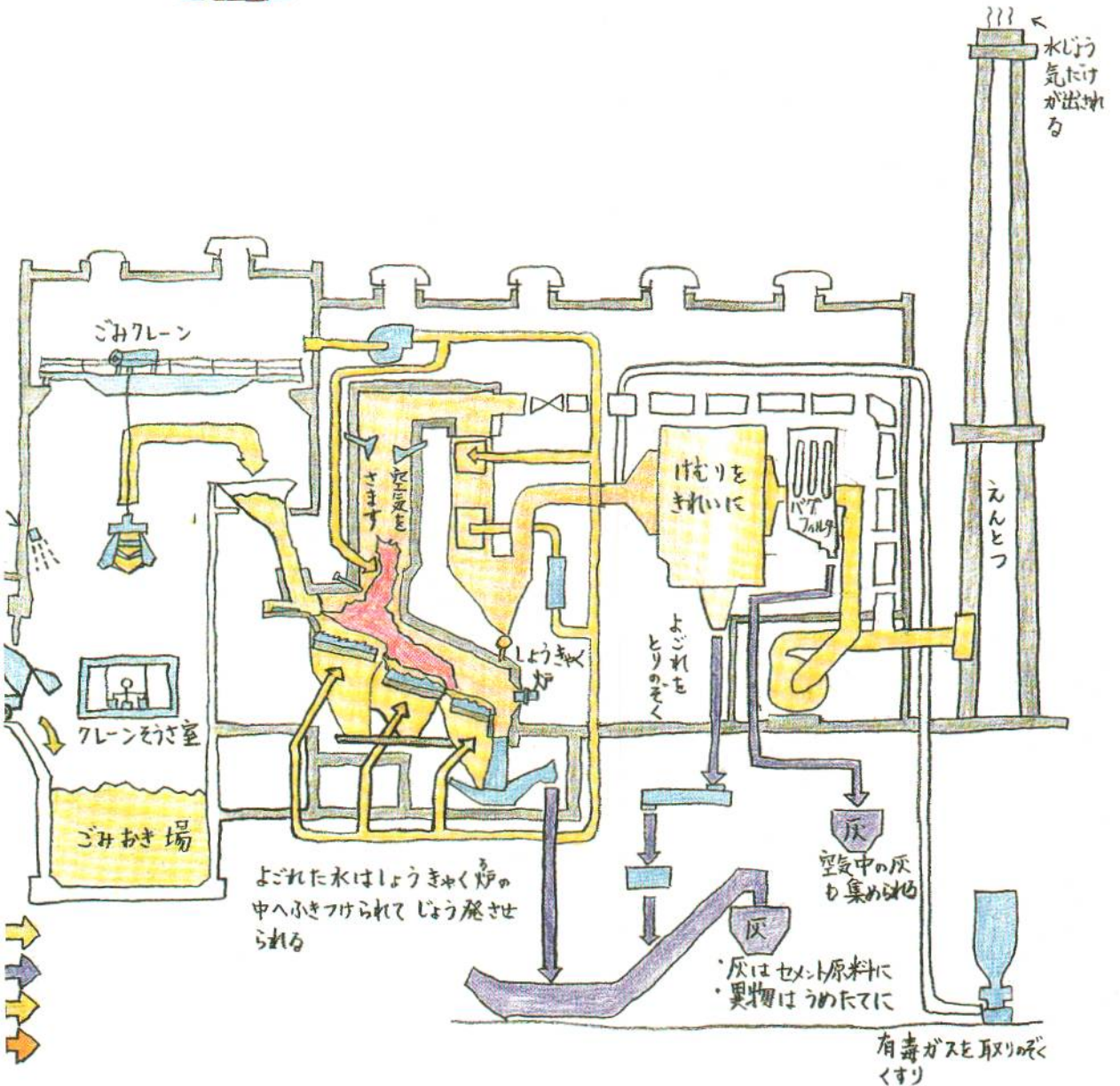
ごみはもやせば終わりなんだろうか。



よごれた水をきれいにする



灰をおくり出す



(5) ごみとかんきょう

かんきょうを守っていくために、どのような工夫や努力が必要でしょうか。



水辺の教室



きれいな空気



不要品回収



生ごみ処理器



児童手作りのかん板



きれいな水



ごみひろい

7. 安全なくらしを守る



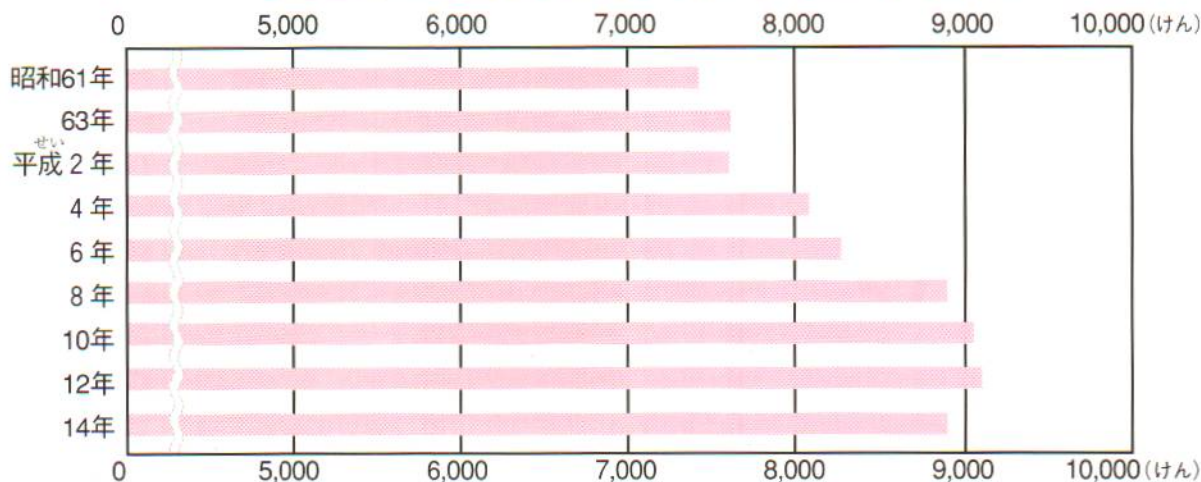
1. 交通じこを ふせぐ

交通じこをふせぐために、村には
どんなしせつがあり、どのような活
動が行われているのでしょうか。

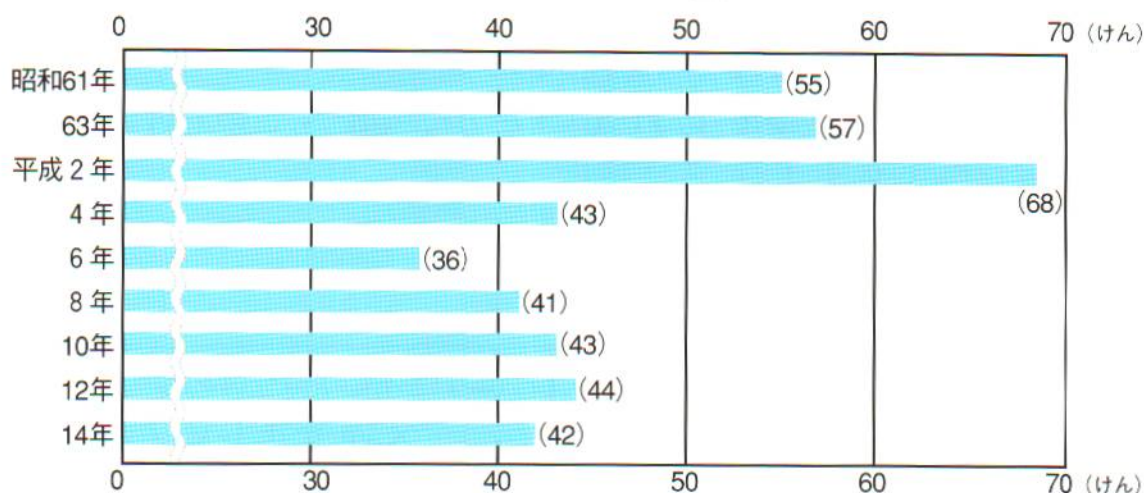


山口県内や川上村では、1年間にどのくらい交通
じこが起きているのでしょうか。

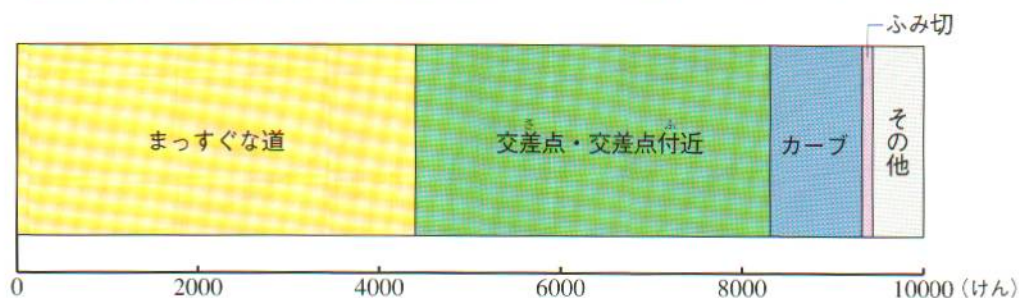
山口県内の交通じこのけん数 (山口県けいさつ本部調べ)



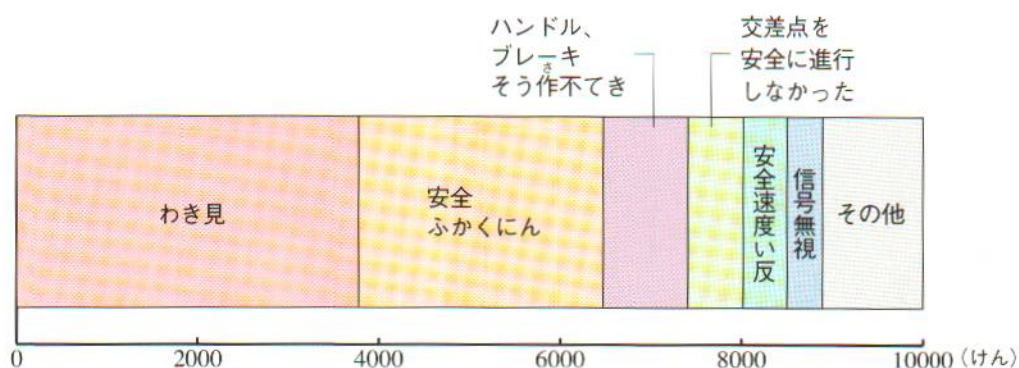
川上村内の交通じこのけん数 (山口県けいさつ本部調べ)



山口県内の交通じこの発生場所 (平成14年度山口県けいさつ本部調べ)



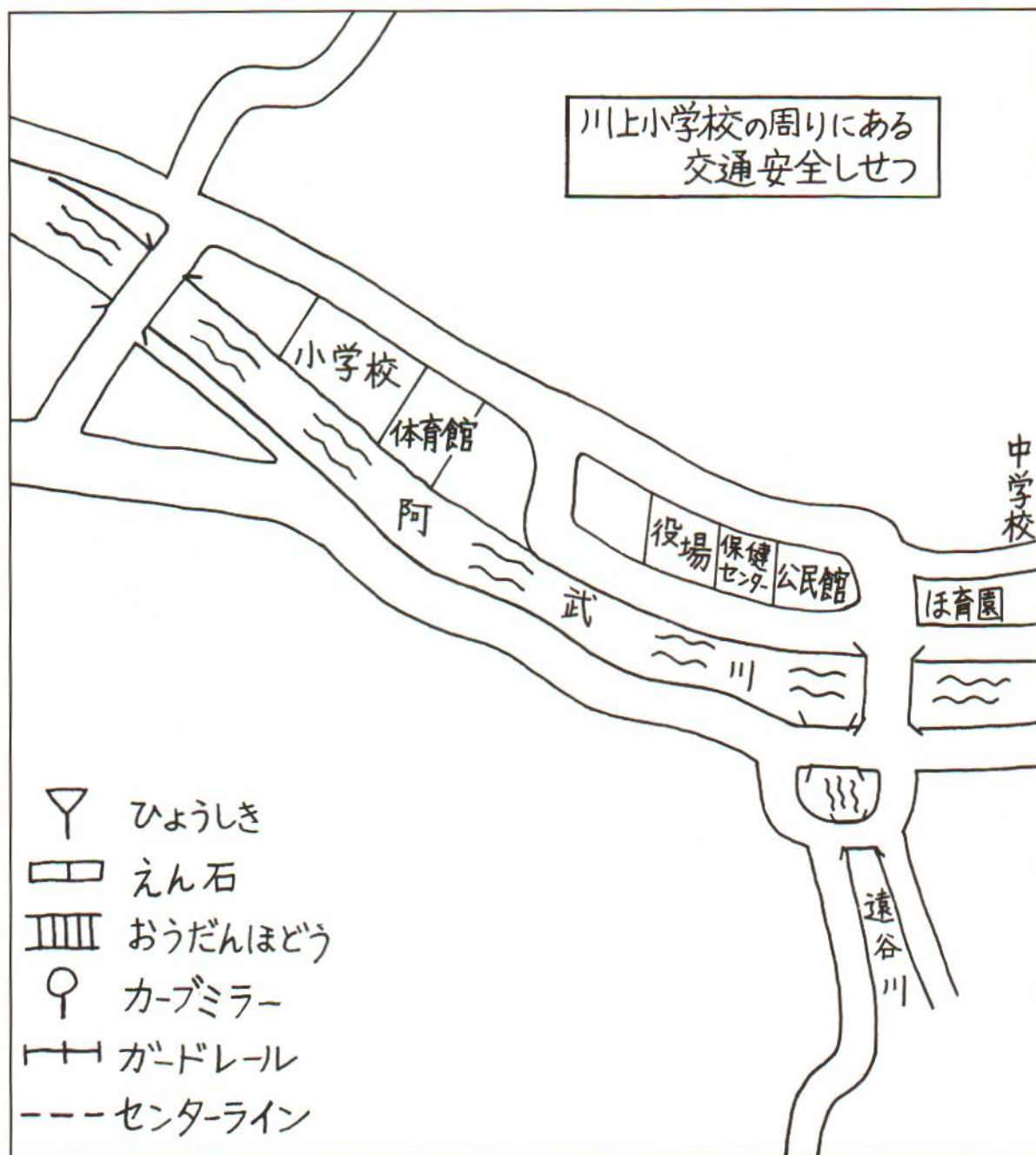
山口県内の交通じこの原因 (平成14年度山口県けいさつ本部調べ)



グラフを見て、どんなことがわかりますか。話し合ってみましょう。

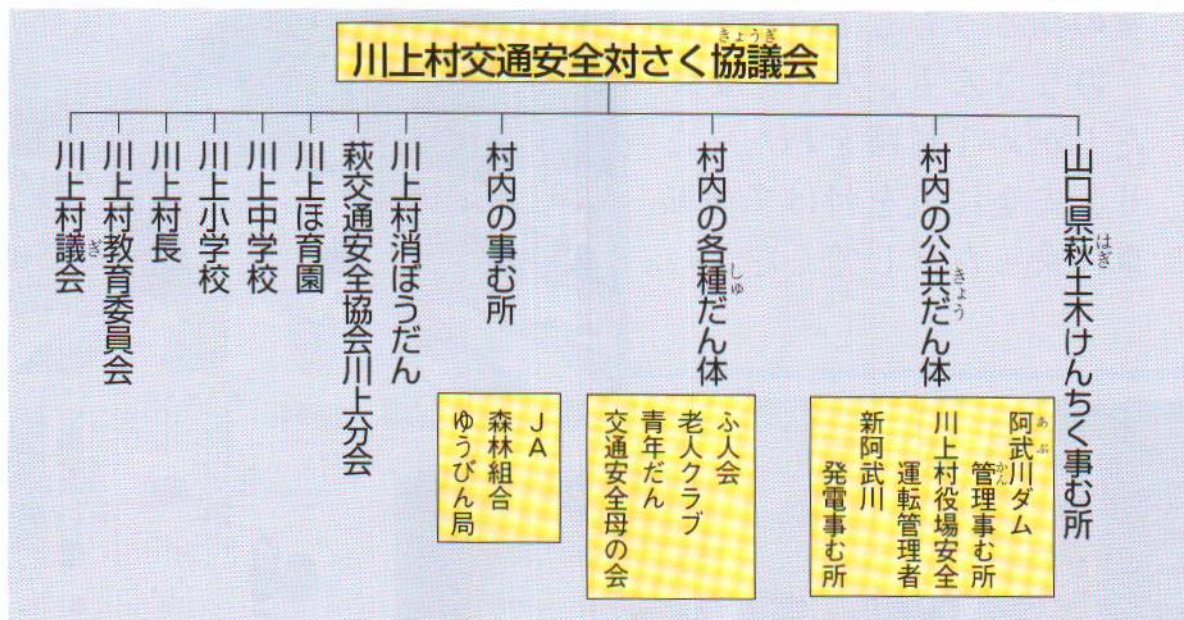
(1) 交通じこをふせぐしせつ

学校の^{まわ}りの道路には、交通じこをふせぐために、
どんなしせつがつくられているか、調べて地図にか
きこんでいきましょう。



(2) 交通じこをふせぐ工ふうや努力^ど

交通じこをふせいだり、安全を守ったりするために、だれが、どんな活動をしているのでしょうか。



交通安全対さく協議会のおじさんの話



この会は、川上村の小学校、中学校、教育委員会、ふ人会、老人クラブなどが集まって、交通じこをふせぐために、きけんなところを調べたり、安全のためのしせつをつくったりしています。



三徳橋の歩道



交通安全のよびかけ

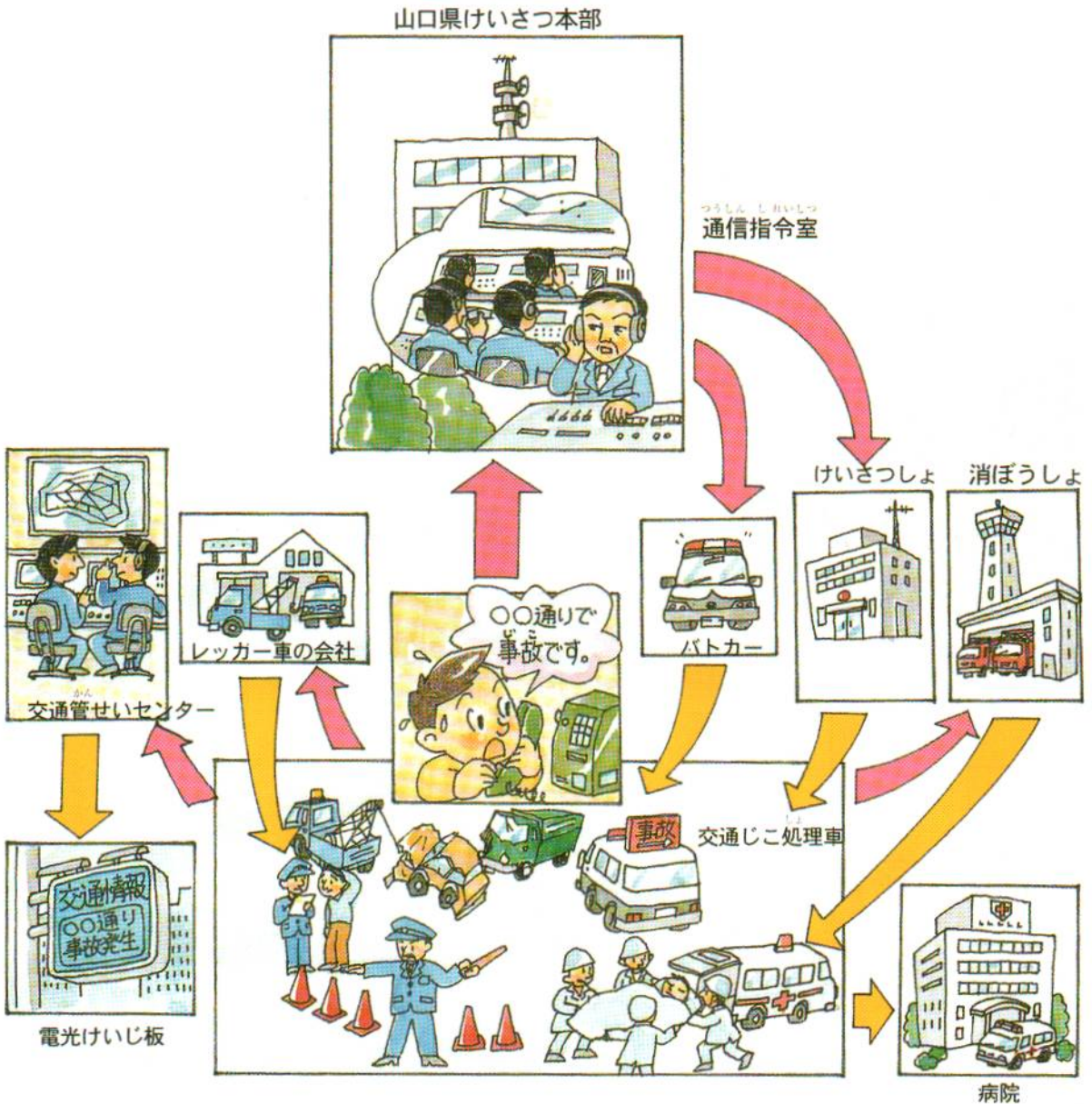


カーブミラー

また、それぞれの役所や学校などでは、交通当番を決めて、交通安全をよびかけています。

(3) 交通じこが起きたら

交通じこの110番の電話は、どのように^{つた}伝わっていき、じこが起きた場所には、どんな人が来るのでしょうか。



2.火事を ふせぐ

(1) 火事をふせぐ

火事から人々を守るために、村にはどんなしせつやせつびがあり、どのような活動が行われているのでしょうか。



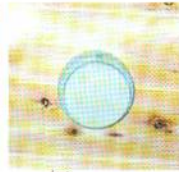
●学校や学校の^{まわ}りの消ぼうしせつやせつび

学校や学校の周りには、火事にそなえて、どこに、どんなしせつやせつびがあるでしょう。調べてみましょう。

学校にある
しせつ・せつ
びをかきこみ
ましょう。



けむり感知機



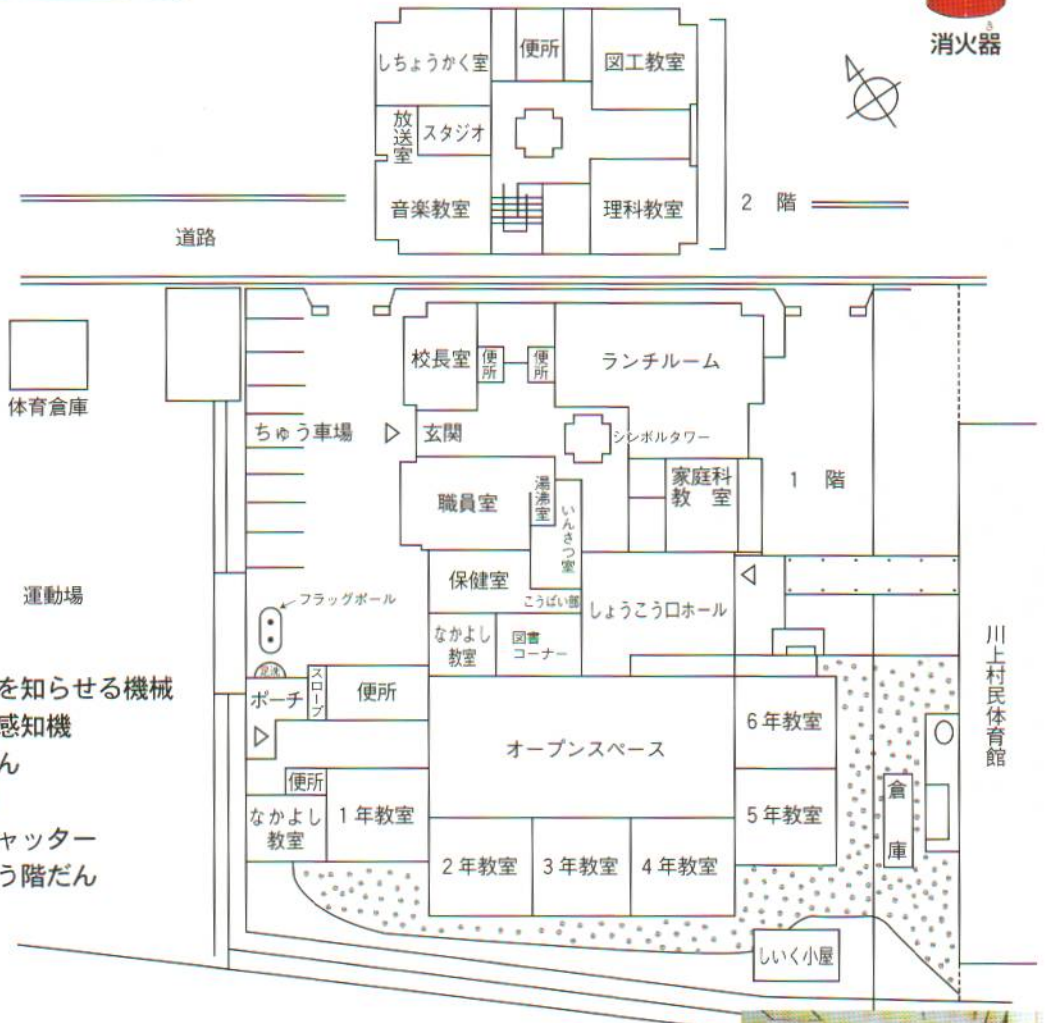
熱感知機



火さいを知らせる機械



消火器



消火せん



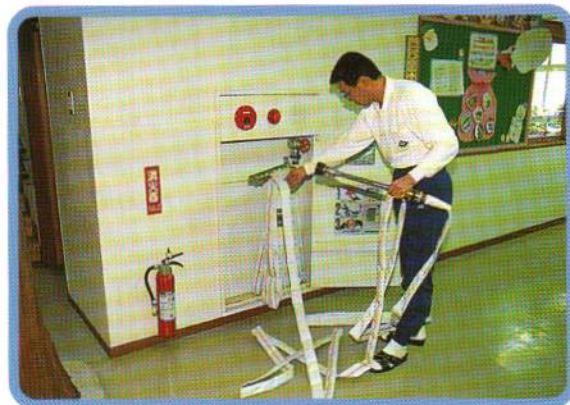
ひじょう階段



ほう火シャッター



ねつかんちき
熱感知機の点検



消火せんの点検

家の中や、家の周りにも火事にそなえてのしせつ
やせつびがあるのでしょうか。さがしてみましよう。



ぼう火水そうのひょうしき



ぼう火水そう



消ぼう水利



消ぼう器庫

●消ぼうだんのはたらき

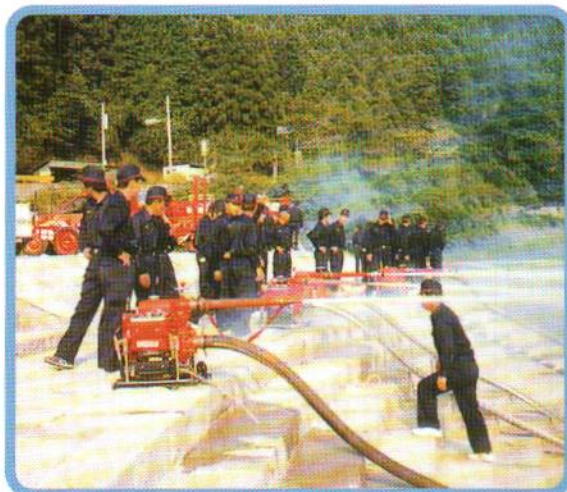
村には、6つの消ぼう分だんがあります。消ぼう分だんには、どんなせつびがあり、どんな活動をしているのでしょうか。

川上村の消ぼう分だん

分だん名	せつび	配置	消ぼう分だんそこのある場所
本部分だん	せきさい車・かはん式ポンプ	ながたに みのり ともえ とおたに 長谷、三徳、共栄、遠谷	役場
第1分だん	せきさい車・かはん式ポンプ	たらの しらがみ つばせ よこさか そうせ 立野、白上、椿瀬、横坂、惣ノ瀬	立野
第2分だん	せきさい車・かはん式ポンプ	やまだ きまうご さご うりづり どうがち 山田、京床、佐古、瓜作、堂河内	山田
第3分だん	せきさい車・かはん式ポンプ	そま きだに そうら だい さきお 杣木谷、惣良台、笹尾	杣木谷
第4分だん	せきさい車・かはん式ポンプ	のとうろ とうね 野戸呂、江舟	野戸呂
役場分だん	消ぼう自動車	役場	役場

消ぼうだん長さんの話

ふだんはちがう仕事をしていますが、ぼうさい無線の放送を聞くと、服そうをととのえ、急いでげん場へかけつけます。また、日ごろから、火事を起こさないように、いろいろな努力をしています。みなさんも火事のこわさを知り、火遊びなどしないようにしてください。



消火くんれん

消ぼうだんのおもな活動

せつびの整び、点けん（毎月5の日）ぼう火のよびかけ、各家庭のぼう問調査、消ぼう水利のかくにん、夏季訓練、出ぞめ式、消ぼう大会への参加など。



出ぞめ式

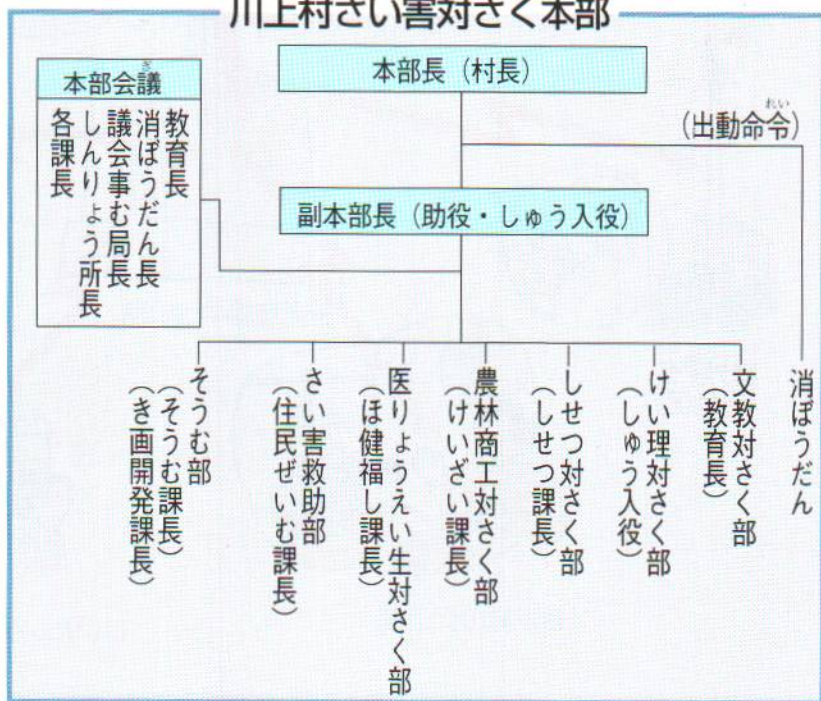
3.風水害を ふせぐ

風水害から人びとを守るために、
村にはどんなしせつがあり、どのよ
うな活動が行われているのでしょうか。



さい害が起こり
そんな時、村には、
さい害対さく本部
がせつ置され、さい
害に関するじよ
うほうを集めたり、
それを村の人に伝
えたりします。
また、さい害げ
ん場のパトロール
にも出かけます。

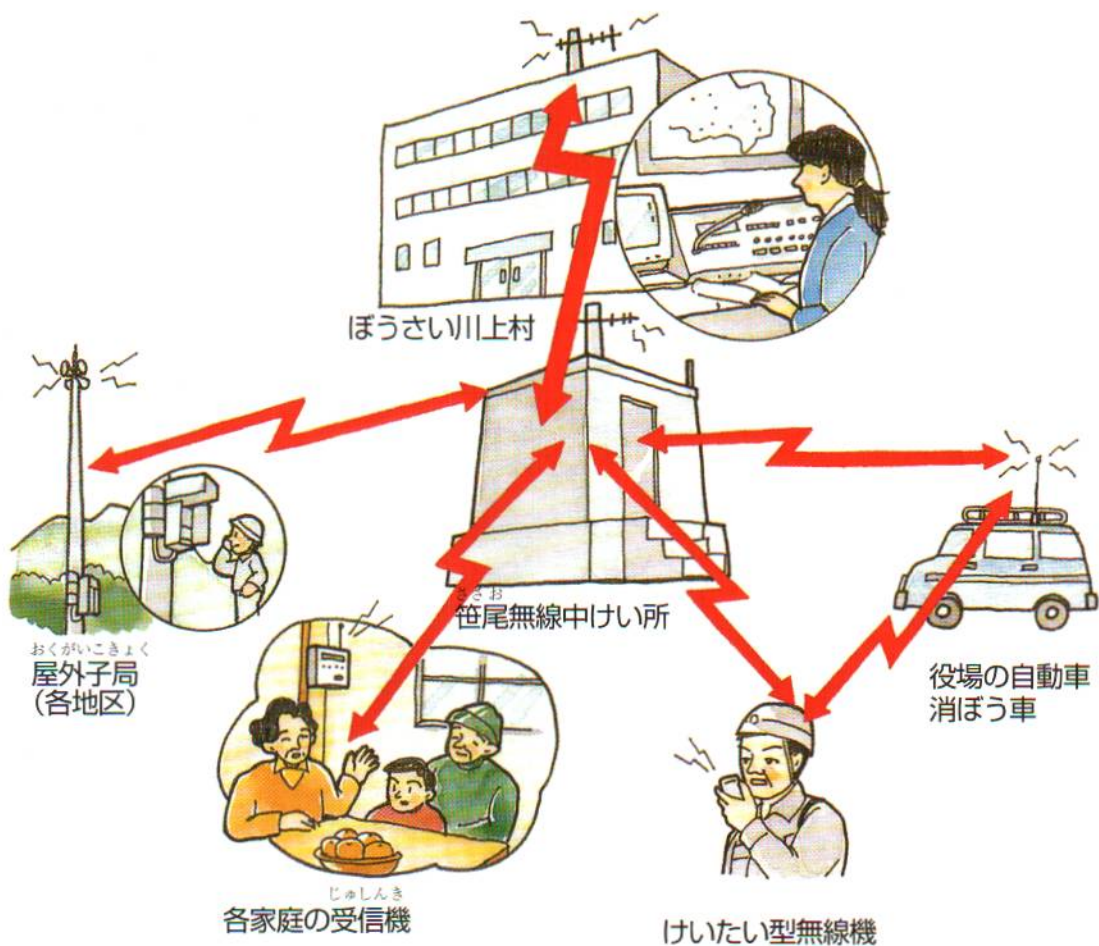
川上村さい害対さく本部



川上村では、昭和63年にぼうさい無線がつくられました。これにより、役場（送信所）から送られるさい害のきん急じょうほうや、日ごろの生活に必要なさまざまなじょうほうが、いち早く正かくに伝えられるようになりました。

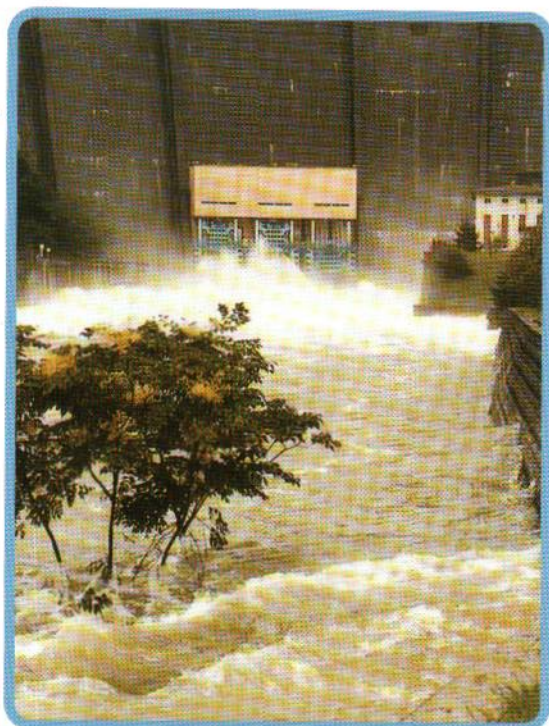
てい電の時にも、自動的に、ひじょう電げんに切りかわり、きん急の大切なじょうほうを伝えるのに、こまらないようにしています。

川上村消ぼうぼうさい無線システム



昭和50年、村に阿武川ダムがつくられ、昔のようなこう水の心配はなくなりました。

また、村では川の流れをよくしたり、ていぼうや山のしゃ面がくずれるのをふせいだりする工事を行っています。



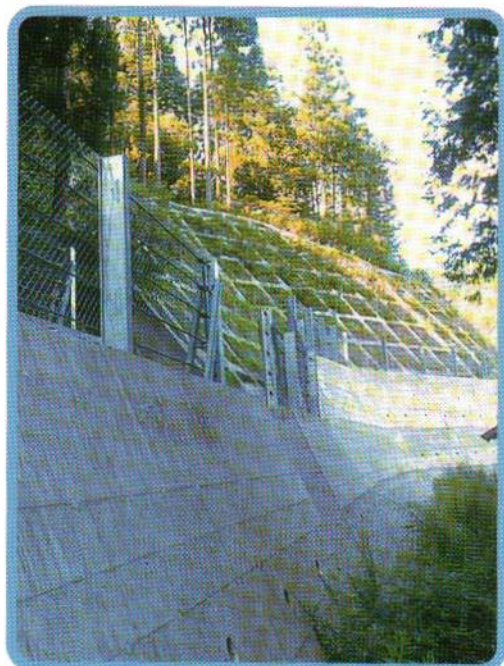
放流中の阿武川ダム



明木川のごがん工事 (京床)



ち山えんてい (岡)



急けいしゃ地の
ほうかいぼうし工事 (筏場)

8. きょうどを開く



1. きょうどの はっ 発てんに つくした 人びと

昔の人々は、きょうどを住みやす
く、ゆたかにするために、どんな努
力をしてきたかを調べてみましょう。

わたしたちの村では、住みやすくゆたかな村にする
ために、どのような苦勞や工ふうをしてきたので
しょう。

(1) 白上原しら がみ ばらの新田開発



げんざいの白上地区のようす

白上原は、川上村で一番広い平地です。林業を中心としてきた村では、食料不足にこまり、この広い平地に水を引いて水田にすることが、ずいぶん昔から考えられていました。

今からおよそ130年前(1866年)に、毛利はんの代官杉民治が、白上原のあれ地を開たくして水田にしようと考えました。明木村(げんざいの旭村明木)の庄屋滝口吉右衛門が、この計画を進めましたが、用水路(田に水を引くための水路)をつくらなければならないこと、さらに、正堂石の大きながんばりに水を通す工事がむずかしいことから、取りやめになりました。

明治20年(1887年)に、立野の平野岩蔵が工事に取りかかりましたが、やはり、正堂石の工事に苦しみ、また毎年のようにくり返す水害に、手のほどこしようもなく、完成させることはできませんでした。

明治25年(1892年)、島根県岩見村(げんざいの島根県浜田市)から、石津平造が川上村にやってきました。平造は、島根県で養さん業をいとなんでおり、当時養さんがさかんだった川上村にやってきましたのです。

開たくの歴史

年代	できごと
1866	杉民治と滝口吉右衛門が開発の計画を進めるが失敗する。
1887	平野岩蔵の計画が失敗する。
1892	石津平造が島根県からやってきて、養さんを始める。
1895	石津平造が白上原の開たくを始める。
1900	石津平造らにより、20ヘクタールの水田が完成する。たびたび、こう水が起き、田が流れる。
1908	阿武忠兵衛、福永清晴が開発の計画を進める。
1909	馬渡井手が完成する。
1914	18ヘクタールの水田が完成する。
1923	大こう水で水田が流れる。福永隆太郎らが国のほ助で17.5ヘクタールの水田を完成させる。

ところが、くわ園として利用しようと考えていた白上原が、水田にてきしていることに気付いた平造は、大金を使って、川上村の人々と共に、工事に取りかかりました。平造は、こう山を切り開くぎじゅつを生かして、正堂石にトンネルをほり、阿武川の水を通すことに成功したのです。こうして、およそ20ヘクタールの水田を完成させました。

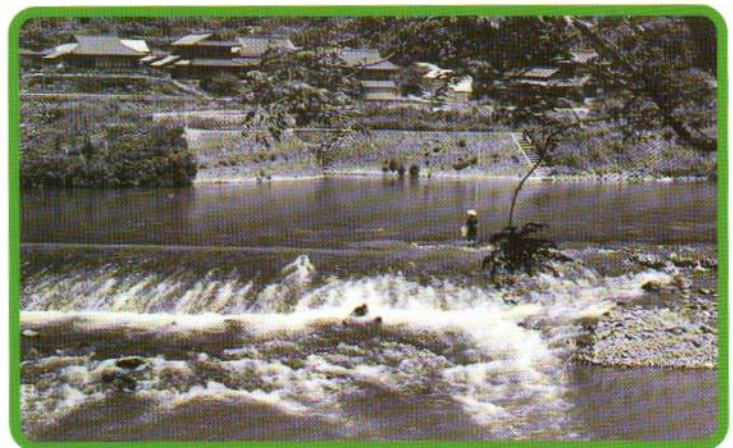


正堂石の通水口

しかし、その後もたびたびこう水が起こり、樋ノ口（げんざいの後場付近）につくっていたていぼうや用水路が流され、水田は水につかって、もとのあれ地にもどってしまいました。平造は希望をすて、島根県へ帰っていきました。

けれども、平造の意しは、この後も村民に受けつがれ、阿武忠兵衛、福永清晴らが、あらたに用水路や石だたみのていぼう（馬渡井手）をつくり、大正3年（1914年）に、およそ18ヘクタールの水田を完成させました。食料不足になやむ川上村にとって、この水田はすばらしいめぐみをもたらしました。

ところが、大正12年（1923年）に、大こう水が起こり、またしても、



馬渡井手

田や用水路は一しゅんにして流されてしまったのです。人々は、いかり、なげき、その悲しみはなみだもかれはててしまうほどでした。



しらかみばら
白上原の開たくのようす

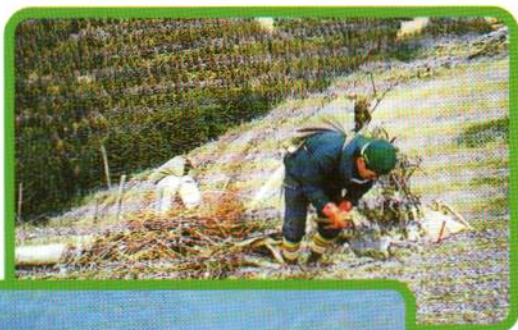
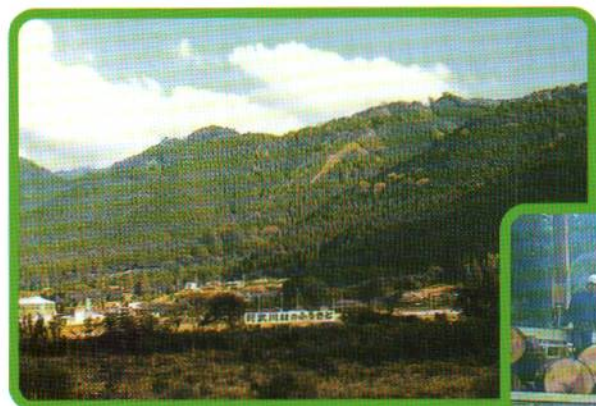
その後、人々は悲しみから立ち上がり、国と協力して全力で取り組み、げんざいのような美しい田の広がる白上原をつくり上げたのです。

今も、白上地区は、川上村の農業、工業の中心地として発てんし続けています。



水田の広がる白上原

(2) 林業の開発



植林



切りだし

川上村は、大部分が美しい山林からなる林業村です。その美しさは、昔、奈良県の東大寺を建てる時に、俊乗坊重源というおぼしゅんじょう ほうちゅう げんうさんが、川上村の杣木谷の木を選んだというほどです。林業が今のようにさかんになって、良い木材を出すようになったのは、昔の人々が努力をして、木を育ててきたおかげです。

昔から、村の人たちは、木を切って木炭やまきを生産し、木炭とまきは川舟で、木材は筏に組んで萩まで運び、それを売って生活していました。そのため、山林はさかんに切り出されていきました。

そんな時、阿武宇吉という人が木を植え、木を育てることの必要ひつせいに気付き、スギやヒノキの植林を始めたのです。これを引きついだ阿武忠兵衛は、植林の大切さを村の人々に説明して回り、人々もそれに気付いて、植林にはげみしました。木を切って、良い木炭やまきをつくり出す一方で、人々は木を育て、山を守り、今のような山口県でも有数の林業村にしていったのです。

阿武宇吉が植林したスギの木は、成長がよく、病害虫に強い木とされ、これからさし木のなえをとったものが、「阿武一号」と名付けられ、県のさいほ場でなえをふやし、山口県のぞう林に生かされています。

●さいほ場…さし木用のなえをとる親木が植えてある所。(むつみ村にある)

(3) 阿武川ダムの建せつ



阿武川ダム

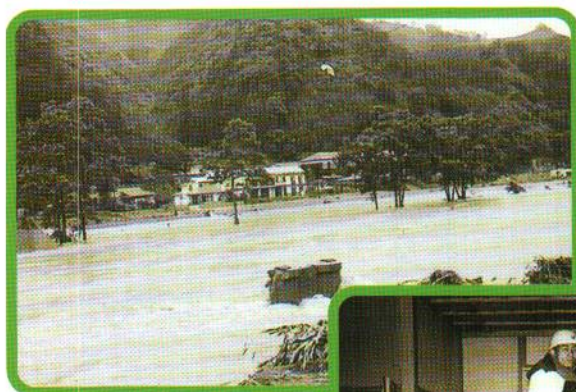
川上村の中心を流れる阿武川は、昔からゆたかな水をめぐみ、人々の交通手だんとして役立っていました。

けれども、大雨のたびにこう水になり、家や橋、田や畑が流されました。このような大水によるひ害をふせぎ、人々の生活を守るために、村と山口県が相談をして、ダムをつくる計画を立てました。昭和45年に工事にかかりましたが、工事のど中にもこう水が起きて、三徳橋や学校のプールが流され、昔の川上小学校も水につかりました。

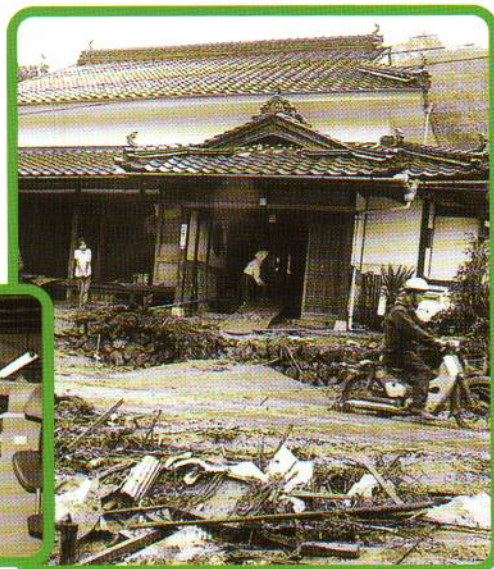
また、ダムをつくるために、高瀬、木津原、藤蔵、大藤、一ノ谷の5つの地区が、水の底にすみました。そのため、162世帯、670人の人々が住みなれた家をはなれ、村内の白上や萩市、山口市にうつっていきました。

このような人々の苦勞のおかげで、昭和50年に、阿武川ダムが完成し、こう水の心配のない、ゆたかな生活を送ることができるようになりました。

ダムがなかったころの様子（昭和47年のこう水）



川のはんらん

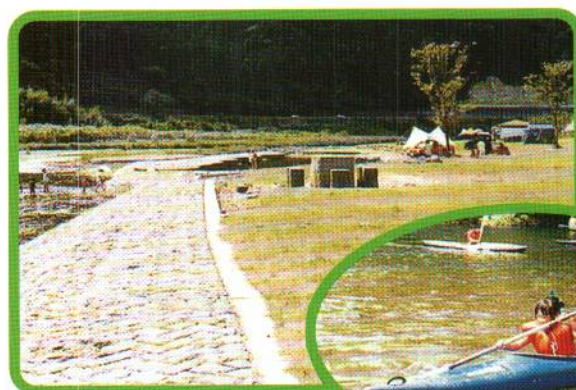


人家のひ害



人家のひ害

ダムが完成してから



かせん公園（白上）



阿武川温せん公園（池ヶ原）

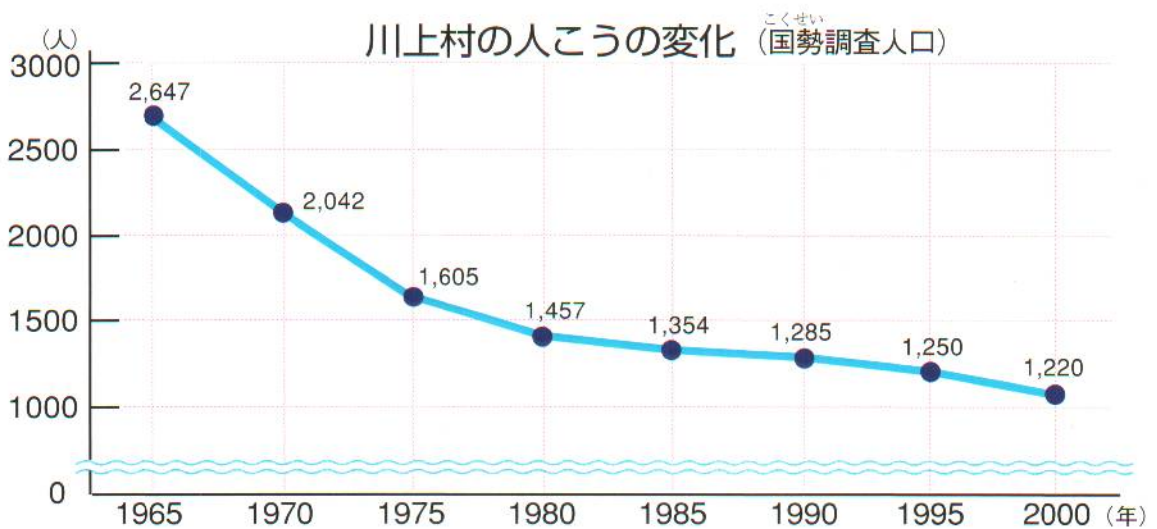


カヌー教室

2.新しい 村づくり

村をもっと発てんさせるために、
今でもいろいろなことが行われてい
ます。新しい村づくりについて調べ
てみましょう。

地いきの人々は、どんな村にしたいという願ねがいをもっているのでしょうか。

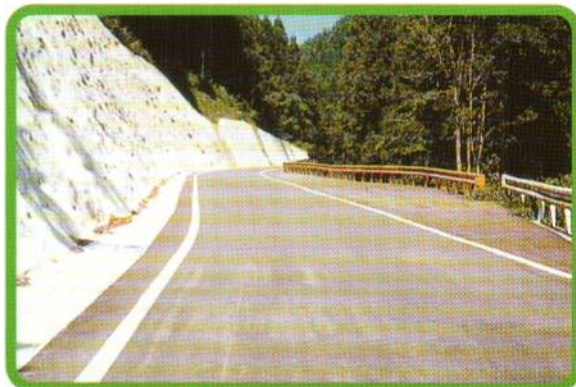


自分たちの身の^{まわ}りで進められている、新しい村づくりの様子を調べてみましょう。

(1) かいてきで住みよい村づくり



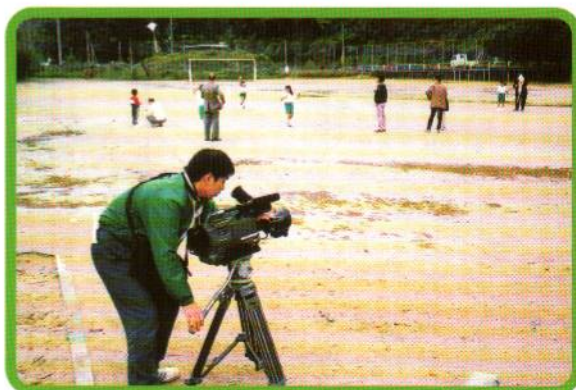
村えい住たく (堂河内)^{どうがち}



道路の^{せい}び



ぼうさい^む無線



ケーブルテレビの取材

(2) なごやかで生きがいのある村づくり



かわかみ^{えん}苑



住民^{みん}けんしん



ほ健センター



ざいたくサービス車

(3) 活力のあるゆたかな村づくり



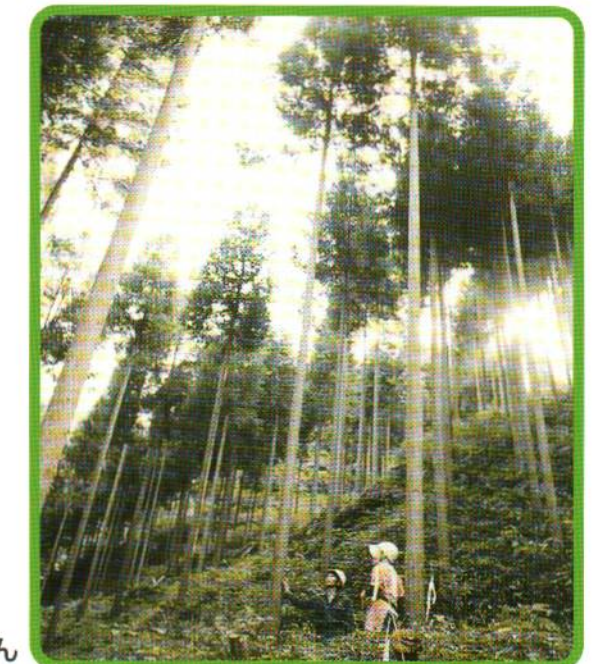
あぶ 阿武川温泉



ふるさとまつり



川上村の特産品



林業の発てん

(4) 未来をつくる人づくり



川上ほ育園



川上中学校
川上小学校



サークル活動



青年団

村長さんのお話



川上村は豊かな緑と、大きな阿武川に代表される美しい村です。風光明媚で萩市にも近いので、これからの発てんが期待されています。

今、この川上村をもっと住みやすくするために、生活は水処理や、定住せいきを進めるなどの、生活かんきょうの整備に力を入れています。また、林業村として、ますます発てんするよう、山の整備も進めています。

川上村は阿武川とともに発てんしてきた村ですから、美しい阿武川を守っていくのも大切なつとめです。

川上村に育つみなさんが、この大自然の中で、たくさんのことをけい験してくれることを願っています。

わたしたちのきょうどを發てんさせるために、昔も今も、たくさんの人々が努力しておられます。

わたしたちのきょうど「川上村」を、もっと住みよいいりっぱな村にしていくために、これからわたしたちは、どうすればよいかを考え、みんなで話し合ってみましょう。

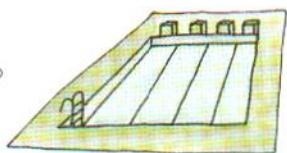
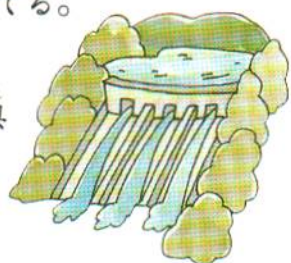


川上村のうつりかわり(年表)

年前	西暦	年号	主なできごと
112年前	1892年	明治25年	立野地区で養蚕を始める。
109年前	1895年	28年	石津平造が白上原の開拓を始める。
97年前	1907年	40年	大こう水で阿武川が増水する。
96年前	1908年	41年	阿武忠兵衛、福永清晴らが白上原こう地整理を行う。
93年前	1911年	44年	長門峡を「長門耶馬溪」と名付ける。
100年前 92年前	1912年	大正元年	小郡～萩間に乗合自動車が走る。(片道1円28銭)
90年前	1914年	3年	第一次世界大戦が始まる。
89年前	1915年	4年	足ふみ回転だっこく機がはじめて使われる。
87年前	1917年	6年	川上村の主なところに電灯がつく。 萩場にゆう便局ができる。
84年前	1920年	9年	長門耶馬溪を「長門峡」とあらためる。 萩～山田～明木の県道ができる。
90年前 82年前	1922年	11年	阿武川下り客舟組合がつくられ、高瀬から 萩市松本まで観光客を運ぶ。 玉泉寺が建てられる。
81年前	1923年	12年	川上ゆう便局で電信を始める。 乗合自動車が山田の県道を走る。
80年前	1924年	13年	川上ゆう便局で公衆電話の通話を始める。
79年前	1925年	14年	萩～萩場間にバスが開通する。
76年前	1928年	昭和3年	川上村役場に電話がつく。
73年前	1931年	6年	発昌寺が建てられる。
79年前 71年前	1933年	8年	国鉄(JR)バスが、東萩～山口間を通り始める。 山陰本線が全線開通する。
71年前 63年前	1941年	16年	萩～長門峡間に乗合自動車が走る。 太平洋戦争が始まる。 「川上村のユズ・ナンテンの自生地」が天然記念物に 指定される。
59年前	1945年	20年	広島・長崎に原子ばくだんが落とされ、戦争が終わる。
57年前	1947年	22年	川上中学校が開校する。



年前	西暦	年号	主なできごと
			消防団ができる。 新しい日本国けん法ができる。
56年前	1948年	23年	川上村農業協同組合ができる。 各学校にPTAがつくられる。
54年前	1950年	25年	川上中学校の校しやができる。
52 60年前	1952年	27年	川上村森林組合ができる。 川上村教育委員会ができる。
50年前	1954年	29年	川上村しんりょう所ができる。
48年前	1956年	31年	小郷橋ができる。 村えい電話がつく。 防長バス立野けいゆ長門峡線が開通する。
47年前	1957年	32年	川上小学校の校しやが、新しく建てかわる。
45年前	1959年	34年	村内にテレビがはいる。 旧公民館ができる。
43 57年前	1961年	36年	川上小学校の校歌・校章が決まる。
40年前	1964年	39年	川上村誌ができる。
38年前	1966年	41年	玉泉寺の毘沙門天立像が県重要文化財に指定される。 8月に集中豪雨、大きいひ害がでる。
37年前	1967年	42年	川上村章・村旗が決まる。
36年前	1968年	43年	明治100年、村制80周年記念式典 が行われる。
34年前	1970年	45年	阿武川ダム工事始まる。 白上住宅団地ができる。
33年前	1971年	46年	立野小学校、高瀬小学校が川上小学校とどう合する。 二義民の碑が相原にふたたび建てられる。
32 40年前	1972年	47年	7月に集中ごう雨、大きいひ害がでる。 三徳橋が流される
31年前	1973年	48年	笹尾分校が川上小学校とどう合する。
30年前	1974年	49年	学校水泳プールができる。
29年前	1975年	50年	阿武川歴史民俗資料館ができる。 阿武川ダムが完成する。



年前	西暦	年号	主なできごと
28年前	1976年	51年	川上中学校の校しやができる。
27年前	1977年	52年	川上給食センターができる。 川上村保育園ができる。
26年前	1978年	53年	野戸呂小学校が川上小学校とどう合する。 野戸呂中学校が川上中学校とどう合する。
25年前	1979年	54年	新しい公民館ができる。
24年前	1980年	55年	第1回川上村ふるさとまつりが開かれる。
³⁰ 22年前	1982年	57年	武井谷緑の村ができる。
21年前	1983年	58年	川上村民体育館ができる。 川上小学校開校110周年記念式典が行われる。
19年前	1985年	60年	川上村へアルミ工場ができる。
16年前	1988年	63年	川上村防災無線が完成する。
15年前	1989年	平成元年	川上小学校が灰福に新しく建てかわる。 村制100周年記念式典が行われる。
13年前	1991年	3年	川上小学校文部省指定きん労生産学習研究発表会を行う。 明神島運動公園ができる。 台風19号で森林が大きなひ害を受ける。
²⁰ 12年前	1992年	4年	三徳橋に歩道橋ができる。 学校週5日制で第2土曜日が休みになる。 阿武川温せんふれあい会館ができる。
9年前	1995年	7年	学校週5日制で第4土曜日も休みになる。
8年前	1996年	8年	特別養ご老人ホーム「かわかみ苑」ができる。
7年前	1997年	9年	川上けいさつ官駐在所が、相原に新しく建てかわる。 川上村ほ健センターが灰福できる。 川上村しんりょう所が灰福に新しく建てかわる。
¹⁸ 2年前	2002年	14年	わくわく冒険ランド遊具設置 特殊学級新教室完成 視聴覚教室コンピュータ設置。校内ラン整備 ALTによる英語学習開始
	2004年	16年	社会科副読本「わたしたちのふるさと かわかみ」改訂版発行



あとがき

小学校3・4年生の社会科の学習では、わたしたちの住んでいる川上村のようすをかんさつして、人々のくらしや仕事について調べることが、中心になっています。そして、これから住みよい川上村にするにはどうしたらよいか考えていくことも、大切なべんきょうです。

そこで、こうした学習に役立ててもらうために、美しいカラー写真やさし絵や図表などを多くとり入れ、なくべくしたしみやすい副読本にしました。

みなさんは、この本を使って、川上村の人々のくらしや住みよい村にするための人々の努力をくわしく調べ、村の発てんについて真けんにご考慮をいただきます。そうして、みなさんが、よりよい村づくりに力をつくすことのできる人になることをねがっています。

この副読本の編集にあたり、多くの方々の温かいご指導や貴重な資料のご提供をいただきましたことに、深く感謝し、お礼を申し上げます。

「わたしたちのふるさと かわかみ」編集委員会

「わたしたちのふるさと かわかみ」
川上村小学校社会科副読本編集委員

平成15年度 改訂版

校長	津田	章
教頭	吉賀	あや子
教諭	上田	謙二
教諭	白石	トヨ子
教諭	中野	朗代
教諭	中上	領佳
教諭	富士	本武
教諭	飛垣	勢則
教諭	能来	島久
教諭	福井	耕平
養護教諭	高中	村京
前編集委員	中小	川元
	景小	川繭
養護教諭		由美
		佐子

平成9年度 初版

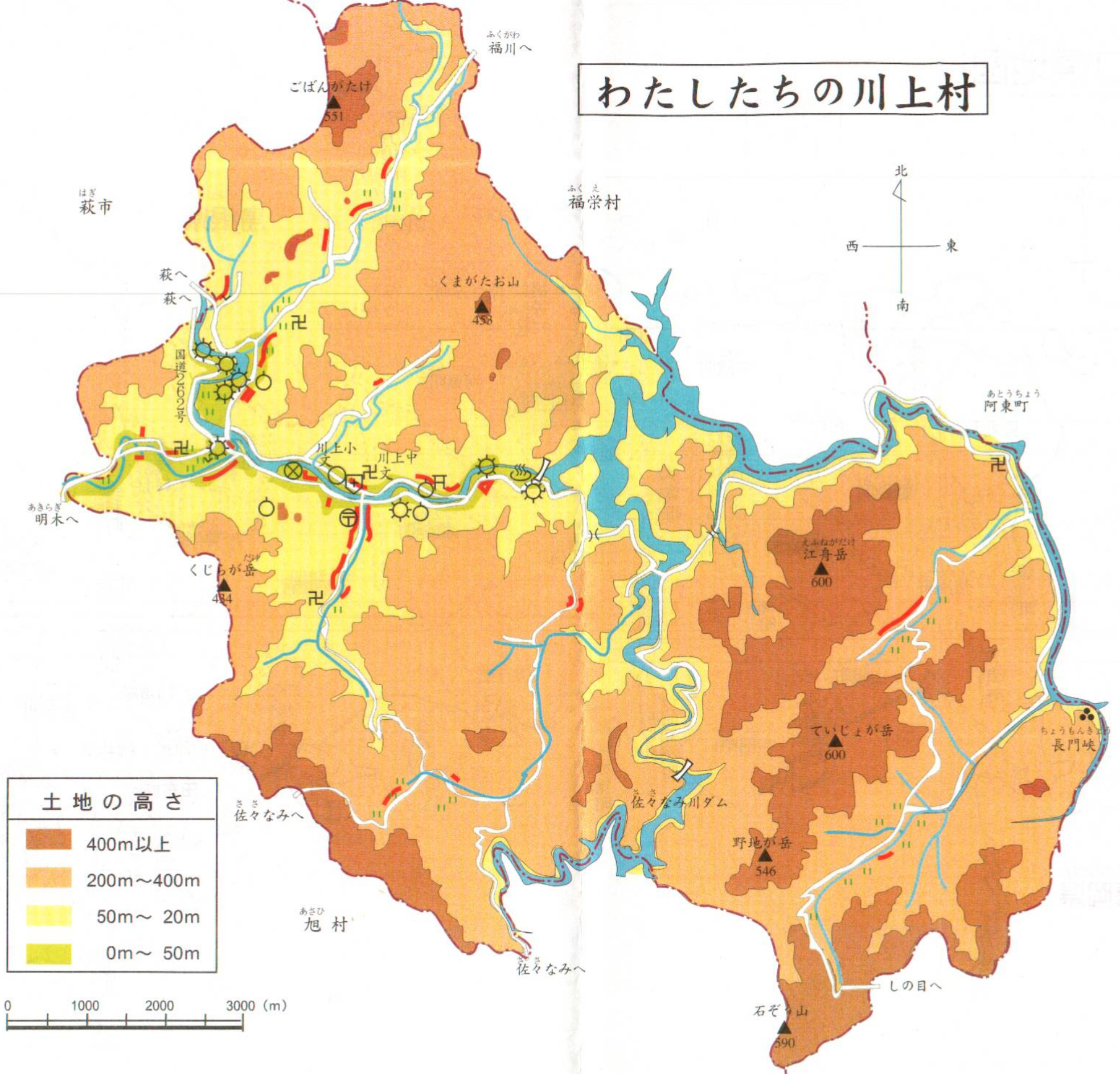
校長	大谷	博	昭
教頭	岡田	部	博
教諭	磯尾	部	里恵
講師	磯尾	後	洋子
教諭	藤原	藤	由美
教諭	藤原	藤	治子
教諭	藤松	井	涼子
教諭	松安	田	光一
教諭	安刀	田	孝彦
教諭		禰	元彦

小学校社会科副読本
わたしたちのふるさと かわかみ

初版 平成9年3月31日 発行
改訂版 平成16年3月31日 発行

発行者 川上村教育委員会
編集者 川上小学校社会科副読本編集委員会
印刷者 大村印刷株式会社

わたしたちの川上村



土地の高さ	
	400m以上
	200m~400m
	50m~20m
	0m~50m



地図のきごう	
	村のさかい
	道路
	役場
	文 学校
	ゆうびん局
	ちゅうざい所
	しんりょう所
	工場
	発電所
	おんせん 温泉
	めいしょう 名勝
	神社
	寺
	川
	ダム
	山のちよう上
	水田
	畑
	かじゅ
	家の集まっ ている所

山口県地図

萩市見島



ふくおかけん
福岡県

しまねけん
島根県

ひろしまけん
広島県

わたしたちのふるさと
かわかみ

川上村立川上小学校 年 組

なまえ

